長崎県文化財調査報告書 第171集

長崎県埋蔵文化財調査年報10

〔平成13年度調査分〕

2003

長崎県教育委員会

はじめに

長崎県内には，多くの有形・無形・民俗等の文化財があります。その中でも地中に埋もれている埋蔵文化財は，遠い祖先の暮らしぶりを伝えてくれる遺産であり，これらを地域の貴重な財産として子孫へ正確に伝えることは現代に生きる私たちの重要な責務であります。

しかし，地下に埋もれた遺跡は，開発事業に伴い永遠に失われる恐れがあります。そのため，開発事業との調整による遺跡の保護を行うとともに，記録として残すための発掘調査に取り組んでいます。

そして，発掘調査によって得られた成果について県民のみなさまに，より関心を持っていただくため，九州北部三県姉妹遺跡交流事業や原の辻大学講座「一支国探訪」，親子古代技術体験事業などに取り組んでいるところです。また，地理的歴史的に関わりの深い日本と大韓民国の文化財担当者による日韓交流史理解促進事業も推進しています。

本書は，平成13年度に県が中心となって行った埋蔵文化財保護・保存・活用に関する諸事業と県下各地で実施した発掘調査の概要を，年報として刊行するものです。

本書が県民のみなさまの文化財に対する理解と愛護の一助となれば幸いです。

平成15年3月

長崎県教育委員会教育長　　木　村　道　夫

例　　言

1．本書は，長崎県における埋蔵文化財保護行政の現状と，長崎県教育委員会が平成13年4月1日から平成14年3月31日までに実施した16箇所の発掘調査の概要を収録したものである。
2．古館遺跡（平戸市）範囲確認調査分については，供養川遺跡範囲確認調査の概要に含む。
3．各遺跡の調査概要中の位置図は，国土地理院発行の地図を使用し，［　］内は図幅名を表す。
4．本書に掲載した遺跡には，県教育委員会が主体となって発掘調査したもの，市町村事業に伴い調査対応したもの，市町村教育委員会による発掘調査を支援したものを含む。
5．平成７年度分より壱岐・原の辻遺跡調査事務所関係の発掘調査については調査事務所の調査年報に概要を収録することになっている。
6．各遺跡の調査担当者と調査概要の文責については，各々の文末に記した。
7．本書の編集は，県教育委員会学芸文化課文化財保護主事 荒井春房 が行った。

本　文　目　次

はじめに

Ⅰ　長崎県の埋蔵文化財の動向

一　埋蔵文化財保護行政の現状 ……1
二　県事業について ……2
三　調査の動向 ……14
四　長崎県教育委員会発行調査報告書一覧 ……23
五　平成8年度から平成13年度の発掘届等件数・県市町村別職員数の推移 ……26

Ⅱ　各遺跡の調査概要

平成13年度長崎県内発掘調査箇所市町村別位置図……27

①糠ノ浜遺跡（豊玉町）28・29
②水崎遺跡（美津島町）…30
③オテカタ遺跡（厳原町）…31
④松崎遺跡（勝本町）…32・33
⑤供養川遺跡（平戸市）…34
⑥西千本松遺跡（平戸市）‥35
⑦千里ヶ浜遺跡（平戸市）‥36
⑧門前遺跡（佐世保市）‥‥37
⑨門前遺跡（佐世保市）‥‥38
⑩小野Ｆ遺跡（佐世保市）‥39
⑪川久保遺跡（佐々町）……40
⑫諫早農業高校遺跡（諫早市）・41
⑬多比良馬場遺跡（国見町）42・43
⑭森岳城跡（島原市）……44・45
⑮小迎遺跡（西彼町）……46

Ⅲ　平成13年度長崎県埋蔵文化財発掘届・発見届一覧表……47

Ⅰ　長崎県の埋蔵文化財の動向

一　埋蔵文化財保護行政の現状

埋蔵文化財は，国民共有の財産であり，わが国の歴史・文化を正しく理解するために欠くことができないもので，一度破壊されれば二度と再現することが不可能である。現在の文化，生活はわれわれの祖先が営々と築いてきた文化遺産を基盤として成立している。過去の文化遺産は，現在の私たちの姿を映す鏡に例えられ，将来・未来を考えるための指針となるもので，将来の文化の創造のためにも貴重な文化財を尊重し，保護・保存・活用して後世に伝えていくことは，現代に生きるわれわれの責務であり，文化財行政の基本といえる。

文化財保護法では，「土地に埋蔵されている文化財」を「埋蔵文化財」と規定している（文化財保護法第57条第１項)。埋蔵文化財は，他の有形文化財とは異なり，土地に埋蔵されているため発掘調査等により，その価値が判明してくるなどの特性を有している。発掘調査等でこの特性が判明すれば，それぞれの文化財である史跡や考古資料としての扱いがなされる。埋蔵文化財は，そのままの状態では十分な価値判断ができないことから，文化財保護法ではこれらすべての埋蔵文化財の保護を対象とし，一定の手続きが定められている。現在，長崎県では3,800ヶ所の遺跡が『長崎県遺跡地図』登録され，文化財担当部局によって遺跡の周知と保護についての取り組みが鋭意努力されている。

本県では，教育庁の機構改革によって，平成13年度から文化振興部門の大半が知事部局の県民生活課に移って児童・生徒に対する文化振興のみが残ることになり，課の名称が「文化課」から「学芸文化課」へと替わった。本課では，埋蔵文化財行政と開発事業の円滑な推進を図るための埋蔵文化財研修事業として，開発部局と市町村文化財担当者を対象とした埋蔵文化財基礎講座を6月21・22日に開催し，文化財保護法の現状と課題，手続き事務，専門的な実践講座などの研修を行った。また，市町村文化財担当者との連絡会議を9月4日に開催し，「九州地区調査基準」の見直し等について説明を行った。

本県の平成13年度の開発工事に伴う工事届（法57条の2・3）は，148件であり，12年度の143件に比べやや上昇している。また，工事にともなう事前調査や遺跡の保護のための発掘調査（法58条の２）は39件である。法57条の学術調査12件と併せた発掘調査の合計は51件であり，その内訳は範囲確認調査2件，本発掘調査49件であり，12年度の98件に比べ半数に激減している。

県内の埋蔵文化財専門職員は65名（内嘱託11名）が配置されており，昨年度と同数である。県教育庁では，学芸文化課に16名（内嘱託6名），原の辻遺跡調査事務所に6名の計22名（内嘱託6名）が配置されている。市町村では，8市21町に43名（内嘱託5名）が配置されている。しかし，全国の都道府県平均が143名というなかで，長崎県は47都道府県のなかで43番目の依然として低い配置率にとどまっている。これから地方分権で市町村合併が進んでいくが，市町村において適正な職員配置がなされない場合，その地域での開発事業が適正に推進されない事態が生じてくることも予想されるところから，埋蔵文化財保護行政の重大な課題として捉え，改善策を模索していかねばならないことが考えられる。

（宮　崎）

二　県事業について

1　開発に伴う埋蔵文化財発掘調査等

県学芸文化課では，各種開発行為に伴って現地踏査を行い，埋蔵文化財の取扱いについての協議を行って文化財保護の観点から範囲確認調査を実施している。その結果に基づいて，遺跡保護のための協議を行うが，設計変更等でも遺跡回避ができず壊される部分については，本発掘調査を実施している。今年度に，県学芸文化課が主体となって行った調査内容は次のとおりである。

○ 本調査

・千里ケ浜遺跡（平戸市）　　港湾改修工事事業
・門前遺跡（佐世保市）　　西九州自動車道建設関係

○ 範囲確認調査（開発に伴う試掘・確認調査を含む）

・小野Ｆ遺跡（佐世保市）　　西九州自動車道建設関係
・川久保遺跡（佐々町）　　西九州自動車道建設関係
・門前遺跡（佐世保市）　　西九州自動車道建設関係
・供養川遺跡（平戸市）　　港湾改修工事関係
・古館遺跡（平戸市）　　港湾改修工事関係
・水崎遺跡（美津島町）　　主要遺跡内容確認調査
・オテカタ遺跡（厳原町）　　主要遺跡内容確認調査
・多比良馬場遺跡（国見町）　　学校改修工事関係
・諫早農業高校遺跡（諫早市）　　学校改修工事関係
・森岳城跡（島原市）　　学校改修工事関係
・糠ノ浜遺跡（豊玉町）　　県道改修工事関係
・小迎遺跡（西彼町）　　県道改修工事関係
・西千本松遺跡（平戸市）　　県道改修工事関係

また，県内市町村事業に伴って，県が調査担当及び支援を行った主な遺跡は次のとおりである。

・松崎遺跡（勝本町）　　港湾改修工事関係
・金田城跡（美津島町）　　史跡整備事業関係

以上の発掘事業の他に，平成13年度には4冊の調査報告書を刊行した。

・『長崎県埋蔵文化財調査年報9』長崎県文化財調査報告書第164集　2002年3月
・『県内主要遺跡内容確認調査報告書Ｖ』長崎県文化財調査報告書第165集　2002年3月
・『森岳城跡』長崎県文化財調査報告書第166集　2002年3月
・『玖島城跡』長崎県文化財調査報告書第167集　2002年3月

（宮　崎）

2　明日へつなぐ埋蔵文化財人づくり事業

（1）埋蔵文化財普及啓発活動の推進

◆ 開発・文化財担当者埋蔵文化財基礎講座

日　時　　平成13年6月20日（水）・21日（木）

場　所　　長崎県庁新別館9Ｆ会議室

本講座の目的は以下のとおりである。

① 開発部局担当者に埋蔵文化財に対する理解を深めてもらい，円滑な埋蔵文化財保護行政を推進する。

② 埋蔵文化財担当者に専門的な知識を修得する場を提供することにより，埋蔵文化財の保護と活用を図る。

研修の内容は以下のとおりである。

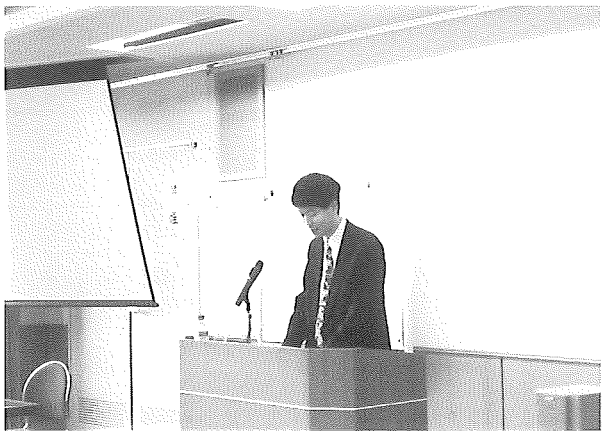
① 埋蔵文化財保護行政と開発事業（学芸文化課）

② 県内の最近の埋蔵文化財事業　（学芸文化課）

③ 埋蔵文化財保護行政の現状と展望（文 化 庁）

④ 埋蔵文化財に関する諸手続きについて（学芸文化課）

⑤ 講義「音楽考古学」　（山田光洋氏）



埋蔵文化財基礎講座　講師：山田　光洋 氏

①～③は，開発部局と文化財保護部局の担当者を対象として6月20日に行い，108名の出席があった。③では，文化庁記念物課の加藤真二調査官より，埋蔵文化財保護行政を取りまく現状と展望に関して具体的なデータを用いてお話いただいた。④～⑤は，文化財保護部局の担当者を対象として翌21日に行い，40名の出席があった。⑤では，（財）横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター調査研究員の山田光洋氏より，「音楽考古学－出土楽器をどのように扱うべきか－」と題して講義をいただいた。考古学においては新しい分野であり，楽器を演奏しての講義は大変興味深いものであった。

◆ 長崎県市町村文化財担当者会議

日　時　　平成13年9月4日（火）

場　所　　長崎県庁新別館9Ｆ会議室

本会議の目的は，県と市町村文化財担当者間の情報・連絡を密に行うことにより，埋蔵文化財及び指定文化財についての円滑な保護行政を推進することにある。内容は以下のとおりである。

①九州地区調査基準について（埋蔵文化財班）

②出土品の取り扱いについて（埋蔵文化財班）

③指定文化財の管理について　（文 化 企 画 班）

④原因者負担に関する郡山裁判の経過について（埋蔵文化財班）

市町村文化財担当者会議

⑤石器捏造問題に関する文化庁通知について（埋蔵文化財班）

市町村担当者55名の出席があった。④・⑤など埋蔵文化財保護行政をとりまく厳しい話題に関しては，特に出席者の関心が高く，活発な質疑が行われた。

（川　口）

（2）親子古代技術体験事業

埋蔵文化財の保護・保存については，埋蔵文化財保護行政の中核であり，今後も技術的精度的向上をあらゆる機会を通して図らねばならない。現今，最も重要視されつつあるのが埋蔵文化財の活用・普及啓発活動である。本事業は，発掘調査によって得られたデータを用いつつ，親子・グループで体験的な活動を行うことにより，郷土の歴史や文化財に対する愛着を持ち，親子の心のふれあいを深めることをねらいとして平成11年度から実施している。具体的には，県学芸文化課職員が，県内各地域の小学校へ出向き，高学年児童およびその保護者を対象にゆとりの時間や余裕教室等を利用して，親子で古代技術の一端を体験してもらうものである。体験内容は，「舞いきり」を使った『火起こし』と，比較的軟らかな石をブロックやヤスリで削って作る『勾玉作り』である。また，『小学校周辺の遺跡紹介』や県内の遺跡から発掘された本物の考古資料に実際に触れ，その使用方法等を説明する時間も設定している。平成13年度は7校で実施した。実施校・参加者数等は次のとおりである。

	日　時	実　施　校	児童数(人)	教職員数(人)	保護者数(人)	合　計
1	5月25日5･6校時	奈良尾町立岩瀬浦小学校	２０	6	２０	４６
2	6月13日5･6校時	長崎市立山里小学校	９９	4	３７	１４０
3	7月12日5･6校時	大瀬戸町立瀬戸小学校	５５	5	３９	９９
4	9月14日5･6校時	田平町立田平東小学校	３１	5	２３	５９
5	10月 5 日2~4校時	佐世保市立白南風小学校	４６	4	２８	７８
6	10月26日5･6校時	有明町立湯江小学校	６５	4	２０	８９
7	11月15日5･6校時	東彼杵町立音琴小学校	３０	7	6	４３
合 計			３４６	３５	１７３	５５４

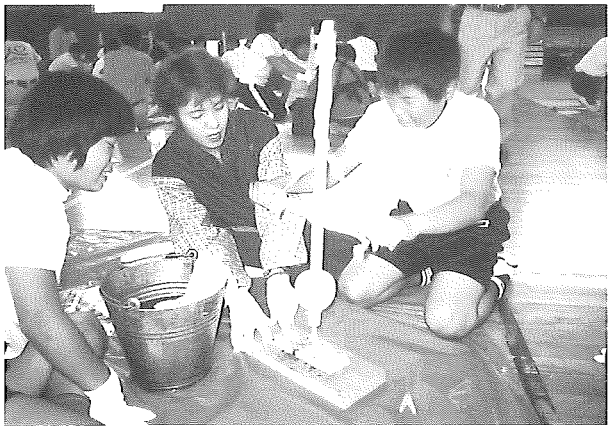
実施後，昨年度に引き続き，児童・保護者・教職員を対象にアンケート調査を行ったが，全実施校にわたり高い満足度であり，事業のねらいはほぼ達成できたといえよう。保護者や教職員の事業に対する評価は，実施日当日の会話にも感じ取ることができたが，そのことはアンケートでも証明された。全実施校の参加児童の評価を，アンケート項目ごとに割合（%）で示すと次のとおりである。

＜ 平成11～13年度アンケート集計結果(全実施校参加児童対象) ＞

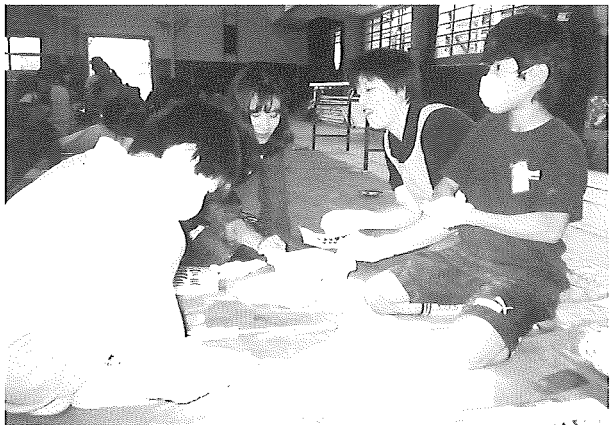
	平成11年度				平成12年度				平成13年度			
項目＼評価	◎	○	△	×	◎	○	△	×	◎	○	△	×
①親子古代技術体験事業は楽しかったですか?	91 %	8 %	1 %	0 %	86 %	12 %	2 %	0 %	83 %	16 %	1 %	0 %
②昔の人たちの生活に興味がもてましたか?	53 %	32 %	14 %	1 %	40 %	40 %	18 %	2 %	46 %	43 %	10 %	1 %
③火おこしは楽しかったですか?	68 %	17 %	8 %	7 %	73 %	19 %	6 %	2 %	80 %	16 %	4 %	0 %
④火おこしはうまくいきましたか?	31 %	19 %	22 %	28 %	38 %	25 %	19 %	18 %	44 %	32 %	19 %	5 %
⑤勾玉作りは楽しかったですか?	86 %	12 %	2 %	0 %	85 %	11 %	4 %	0 %	89 %	9 %	2 %	0 %
⑥勾玉作りはうまくいきましたか?	44 %	32 %	17 %	7 %	41 %	32 %	19 %	8 %	38 %	42 %	16 %	3 %
⑦仲間(保護者)と協力して作業できましたか?	65 %	21 %	11 %	3 %	63 %	27 %	9 %	1 %	71 %	24 %	4 %	1 %

（◎・・大変良い　○・・良い　△・・ふつう　×・・あまり良くない）

平成11年度から平成13年度までの項目別の評価を見ると，項目①では，「大変良い・良い」が各年度ともに98～99％である。項目②・③・⑤も高い数値を示している。一方，「ふつう・あまり良くない」という評価を点検してゆくと，項目②は各年度ともに10％を超えており，10人に1人は興味・関心の観点でやや不満を持つことがわかる。項目④については，項目③と比例関係にあると考えられる。やはり『火起こし』は自分自身の力で火を起こせたか否かが，児童の大きな関心事であることがわかる。また，グループ内での協力関係・人間関係が円滑だったか否かもこの数値の背景に潜んでいると思える。『勾玉作り』については，作業の出来具合にかかわらず，ほとんどの児童が「楽しかった」と考えている。『勾玉作り』は児童一人ひとりが自分の創意工夫により勾玉を制作してゆく作業であり，「仲間との協力」の度合いが『火起こし』と異なっている。どちらかというと仲間との関わりが少なく，一人での作業となることから心の負担の面で楽になるのではなかろうか。この点，現代っ子の一面を垣間見た気がする。道具類の準備については，火起こし道具の設定作業（乾燥も含む）は毎回大変満足できるところまで整備することができた。このことは，項目④のあまり良くないという評価が平成13年度は前年度までと比べて激減していることで証明されよう。『勾玉作り』については，完成させることはできなくても，時間内になるべく荒削りまで終えるよう指導したが，使用する勾玉の原石を軟質のものに変更する等の配慮も行った。『小学校周辺の遺跡の紹介』については，小学校高学年という発達段階に配慮した言葉遣いを用い，また，考古学の専門用語をなるべくわかりやすくかみ砕いて説明するように心がけた結果，「自分の学校のすぐ近くに遺跡があるなんて知りませんでした。今度行ってみたいと思います」「遺跡めぐりをしたい」等の意見も多く見られ，遺跡への興味・関心を高める契機となったことも確かである。『遺物に触れる』時間については，児童は食い入るように遺物を見，また積極的に触れていた。教科書や資料集などの写真では到底かなわない「実物」の力をまざまざと感じさせられた。



親子古代技術体験事業（火起こし）於：湯江小学校



親子古代技術体験事業（勾玉作り）於：白南風小学校

以上は児童に対する考察であったが，保護者・教職員のアンケートでは，「日頃家では見られないわが子の姿を見ることができ，大変有意義でした」という意見や，「授業の動機付けに大いに役立つと思います」という意見もあり，親子の心のふれあいを深め，また総合学習の時間も視野に入れた社会科学習の一つの方法を提示できたという面で，本事業を実施した目的は十分達成できたといえよう。

（荒　井）

3　ふるさと古代遺産保存継承事業

県内主要遺跡内容確認調査事業

長崎県内には約3,800箇所の埋蔵文化財包蔵地が周知されているが，この内155の遺跡については，本県の特質をよく伝える重要な遺跡であるといえる。しかし，それらの遺跡についても，その内容の把握が十分とはいえない面もあり，僅かづつではあるが，緊急度や地域性などを考慮しながら内容確認調査を継続している。

平成13年度の調査は，美津島町に所在する水崎（みずさき）遺跡と，厳原町所在のオテカタ遺跡の調査を実施した。水崎遺跡は，倭寇の領袖としても知られる土豪早田氏とも関係の深かった地域に所在し，大量の朝鮮・中国・東南アジアの陶磁器などが出土し，当時における日本の対外交流を知るうえでも重要な遺跡である。オテカタ遺跡は，対馬において最初に発見された弥生時代の生活遺跡として知られる。神田川，乱川流域には弥生時代から古代・中世にわたる時期の遺物が出土し，現在の水田面下には弥生時代以降の遺構が残存していることが予想されている。これらの調査結果については，平成14年度刊行予定の『県内主要遺跡内容確認調査報告書Ⅵ』に詳しい。

（荒　井）

4　原の辻遺跡保存活用事業及び保存整備事業

長崎県では，中国の歴史書「魏志倭人伝」に記載された「一支国」の王都に特定された原の辻遺跡の特性を活かした保存整備を促進し，地域振興の核として活用を図るため，原の辻遺跡関係事業として保存活用事業と保存整備事業を実施している。事業内容は，管理運営，保存整備，公有化，保存活用，普及啓発，発掘調査，遺物整理，そして原の辻遺跡が平成12年11月に国指定特別史跡になったことを記念して，『発掘「倭人伝」－海の王都，壱岐・原の辻遺跡展』を壱岐，大阪，福岡で開催した。

（1）原の辻遺跡保存活用事業

・原の辻遺跡発掘調査（国庫補助事業）

・原の辻遺跡調査事務所と壱岐・原の辻展示館の管理運営

・九州北部三県姉妹遺跡締結記念「三遺跡交流こどもフォーラム」（甘木市・8月2・3日）

・調査指導委員会の開催（8月28日，2月18日）

・「要覧」「原の辻ニュースレター」第10～12号の刊行

・出土遺物の複製・保存処理，記録ビデオの作成

・出土遺物整理（緊急地域雇用特別交付金対策事業）

・『発掘「倭人伝」－海の王都，壱岐・原の辻遺跡展』（壱岐・大阪・福岡）

（2）原の辻遺跡保存整備事業

・史跡整備のための調査（芦辺町1,000㎡，石田町1,806㎡）

・土地の公有化（国・県補助）

・原の辻遺跡調査研究事業（県単独事業）

・拠点遺構発掘調査（緊急地域雇用特別交付金対策事業）面積1,000㎡

次に，原の辻遺跡調査事務所が実施した発掘調査の概要を述べる。

（３）原の辻遺跡発掘調査事業（国庫補助）

平成13年度の国庫補助による範囲確認調査は，芦辺町側の台地西側の低地（八反地区）と石田町側の台地南西部（池田大原・苣ノ木・原ノ久保地区）に面積1,329㎡の調査区を設定して発掘を行った。芦辺町八反調査区では，濠１条と溝１条が検出された。石田町側の調査区では，苣ノ木地区と原ノ久保地区の調査区において箱式石棺墓，石蓋土壙墓，小児甕棺墓などの墳墓が検出された。これまで８ヶ所の墓域が確認されていたが，弥生時代中期から後期の新たな墓域が発見され，苣ノ木地区の５号甕棺から原の辻遺跡で初めて銅釧が出土したことが大きな成果であった。

（４）原の辻遺跡調査研究事業（県単独事業・環濠等状況調査）

平成13年度は，台地西側の低地（芦辺町八反地区）に面積1,100㎡の調査区を設定して発掘を行った。その結果，弥生時代中期から古墳時代初頭の3条の環濠と1条の溝が検出された。溝のＳＤ2からは，祖霊を象った人面石製品が出土し，ノルウェーの画家ムンクが画いた「叫び」に似た表情の人面石は，遺跡展でも人気を呼んで話題となった。また，ＳＤ2から出土した三耳付の三韓系瓦質壺形土器や水晶製の切子玉が，遺物として注目される。

（宮　崎）

５　原の辻大学講座「一支国探訪」

原の辻遺跡は，平成9年に国史跡，平成12年に国特別史跡に指定された我が国の弥生時代を代表する重要な遺跡である。このことを受け，県では九州北部三県姉妹遺跡締結記念事業の開催などを通じて本遺跡の重要性を県内外に訴えてきたが，さらに国内の幅広い人たちに本遺跡を理解してもらうために，平成12年度～平成14年度の3ヶ年にわたる事業として，原の辻大学講座「一支国探訪」を企画・実施している。本講座は，毎年3会場において県教育委員会が招聘した講師による講演及び原の辻遺跡調査事務所所員による発掘調査報告を行うものであり，平成12年度及び13年度の講演テーマ・講師は以下のとおりである。

年度	講演テーマ	講師
平成12	戦い	佐原　眞（国立歴史民俗博物館長）
	環濠集落	工楽 善通（〔財〕ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所研修事業部長）
	葬制と祭祀	高島 忠平（佐賀女子短期大学教授）
平成13	東アジアの中の一支国	西谷　正（九州大学大学院人文科学研究院教授）
	弥生都市はあったか	寺沢　薫（奈良県立橿原考古学研究所調査第一課長）
	勾玉のはなし － 縄文時代から古代まで －	木下 尚子（熊本大学文学部教授）

平成13年度の日時・講座内容は次のとおりである。

・第一回　日　時　平成13年10月21日（日）13：30～15：30

会　場　福江市総合福祉保健センター

講　師（１）講　演　　テーマ　「東アジアの中の一支国」

西谷　　正（九州大学大学院人文科学研究院教授）

（２）発掘調査報告　「原の辻遺跡について」

中尾　篤志（長崎県教育庁原の辻遺跡調査事務所文化財保護主事）

・第二回　日　時　平成13年11月17日（土）19：00～21：00
会　場　熊本市国際交流会館
講　師（1）講　演　　テーマ　「弥生都市はあったか」
寺沢　　薫（奈良県立橿原考古学研究所調査第一課長）
（2）発掘調査報告　「原の辻遺跡について」
安楽　　勉（長崎県教育庁原の辻遺跡調査事務所課長）
・第三回　日　時　平成13年12月2日（日）13：30～15：30
会　場　松浦市生涯学習センター
講　師（1）講　演　　テーマ　「勾玉のはなし― 縄文時代から古代まで ―」
木下 尚子（熊本大学文学部教授）
（2）発掘調査報告　「原の辻遺跡について」
藤村　　誠（長崎県教育庁原の辻遺跡調査事務所文化財保護主事）

講演：木下　尚子 氏

熱心に聴講する参加者

実施後のアンケート等をみると，講演・発掘調査報告ともにたいへんわかりやすく原の辻遺跡や弥生時代の考古学について理解が深まったという意見があり，質疑応答はたいへん活発であった。各会場とも考古学・歴史学に高い興味・関心を持つ方が参加しており，また，複数の講演会に参加する方もあった。

（荒　井）

6　九州北部三県姉妹遺跡締結記念「三遺跡交流こどもフォーラム」（8月2日～8月3日）

「三遺跡交流こどもフォーラム」は，福岡県が幹事県となり，甘木市の平塚川添遺跡，平塚川添遺跡ガイダンス体験学習館，ピーポート甘木，国立夜須高原少年自然の家などを舞台に開催された。

1日目は開会式の後，平塚川添遺跡において遺跡観察と古代生活体験を行った。遺跡観察では，平塚川添遺跡に復元されている祭殿・倉・竪穴住居・環濠などの観察と火起こし体験を行い，古代生活体験では，やりなげ・力じまん・丸太わたり・弓矢体験・ロープわたり等を行った。続いて古代食体験と勾玉作りを体験した。国立夜須高原少年自然の家へ移動の後，プレイホールにおいて構成的グループエンカウンターを軸とした交流会が開催された。

2日目は，甘木歴史資料館において遺物観察の後，ピーポート甘木にて，「こどもフォーラム」と奈良大学教授酒井龍一氏の「弥生の世界にいこう」と題する講演会が行われた。「こどもフォーラム」では，三県児童によって構成された10班が，「食べ物」・「戦い」・「ファッション」・「すまい」・「お祭り」などのテーマについて協力して調べ，発表を行った。酒井龍一氏の講演は，考古学の成果を交えつつ，子どもたちの考古学に対する興味・関心をかきたてる楽しくわかりやすいものであった。

三遺跡交流こどもフォーラム

この交流を通して感じたことは，三県の子どもたちが古代体験等を通して，楽しく古代人の生活を学べたということである。様々な体験の中で，古代に生きた人々の叡智を敏感に感じ取る子どもたちの姿が印象的であった。また，一連の体験活動やこどもフォーラムの中で，仲間と協力して課題を解決してゆくことを通して，人と人とのあたたかい繋がりの尊さや協力する事の大切さを実感できたのではと思った。いずれにしても，たいへん意義深い交流となったことは間違いない。

（荒　井）

7　日韓交流史理解促進事業

本事業は，日韓海峡沿岸県市道知事交流会議を構成する8県市道が，日韓の歴史認識の共有化と両国民の相互理解を目的として「日韓交流史研究」を行い，日韓の友好・交流を学術面から推進することをねらいとし，日本側は福岡県，佐賀県，山口県，長崎県の4県，韓国側は釜山広域市，全羅南道，慶尚南道，済州道の4市道による相互交流を平成13年度から平成17年度までの5年間にわたり実施するものである。4年間で一巡し，5年度にシンポジウムの開催と報告書の刊行を行う予定である。

派遣の方法としては，相互派遣方式をとり，同一年度内に派遣・招請を行い，先に日本側が研究者を韓国へ派遣し，次に韓国側から研究者を日本へ招請する。派遣相手については，日本側と韓国側で１対１のペアを設定し，次年度以降にペアを替えていくものである。それをまとめたものが下の表である。

年　度	福　岡　県	佐　賀　県	長　崎　県	山　口　県
１３	釜山広域市	全羅南道	済州道	慶尚南道
１４	済州道	釜山広域市	慶尚南道	全羅南道
１５	慶尚南道	済州道	全羅南道	釜山広域市
１６	全羅南道	慶尚南道	釜山広域市	済州道
１７	シンポジウムの開催，報告書の刊行			

〈日韓交流史理解促進事業年次計画〉

平成13年度は長崎県から文化財担当職員2名を派遣した。概要は以下のとおりである。

1　派遣期間

平成13年11月26日（月）～12月9日（日）

2　派遣職員

長崎県教育庁学芸文化課　　文化財保護主事　荒井　春房

長崎県教育庁原の辻遺跡調査事務所　主任文化財保護主事　町田　利幸

3　調査研究テーマ

島嶼部における遺構・遺物から見た日韓交流史の調査研究

4　調査研究概要

済州道内の遺跡・遺物の現地調査と博物館等の視察

5　調査地・視察地

大韓民国済州道：済州市，西歸浦市，北済州郡，南済州郡

【旧石器時代】

北済州郡　涯月邑：於音里ピレモッ洞窟，西帰浦市：天地淵

【新石器時代】

北済州郡　朝天面：北村里岩陰，翰林邑：月令里ハンドゥルグル，才里洞窟，高山里遺跡

【支　石　墓】

済州市　龍潭洞，道南洞，吾羅洞，三陽洞，道蓮洞，外都洞

北済州郡　月邑光令里，貴日里，高内里

翰林邑甕浦里，牛島

南済州郡　台静邑東日里，日果二浦里，上募里，下募里，加波島

安徳面倉川里，南元邑新礼二里，城山邑新山里

【青銅器時代～三国時代】

済州市　健入洞：健入洞遺跡（山地港遺跡），龍潭洞：龍潭洞遺跡

北済州郡　涯月邑：郭支貝塚，三陽洞遺跡

【高麗王朝時代】

北済州郡　涯月邑：抗蒙遺跡（三別抄の乱の土塁），三別抄抗蒙殉義碑

【その他の視察地】

済州市　我羅二洞：済州大学校博物館（遺物）

三徒一洞：観徳亭（朝鮮王朝時代の建物で，済州島で最古の木造建築物）

二徒洞：三姓穴（済州島の開闢神話にある聖地）

一徒二洞：済州道立民族自然史博物館　二徒一洞：五賢壇（5人の賢人の祭壇）

三陽一洞：元堂寺五層石塔

北済州郡　朝天面橋来里：サングムブリ（火山）

南済州郡　城山邑城山浦：日出峰（火山），萬丈窟（噴気孔），挾才窟（噴気孔）

表善面城邑里：城邑民俗村　表善里：済州民俗村

安徳面沙渓里：山房窟寺，ハーメル記念碑

西歸浦市　正房瀑布，天地淵瀑布（景観），河浦洞：法華寺跡

【その他】

済州馬（天然記念物），筏船，鳥竿（ソッテ）と長柱（チャンスン）

6　視察行程

月	日	曜	おもな視察地	宿泊地
11	26	月	長崎－福岡空港－済州空港	済州市
	27	火	国立済州大学博物館，国立済州道民俗自然史博物館	済州市
	28	水	三姓穴，済州城址，三陽洞支石墓，三陽洞先史時代遺跡 伝堂寺（佛塔寺），済州牧官衙址，龍潭洞支石墓	済州市
	29	木	高山里先史遺跡，済州道溶岩洞窟地帯，明月城址，郭支貝塚 缸坡頭里，三別抄遺跡，国立済州博物館	済州市
	30	金	北邑里遺跡，万丈窟，榧林地帯，別防鎮，終達里貝塚，サングムブリ	済州市
12	1	土	漢拏山，天王寺，観音寺，耽羅木石苑，山川壇	済州市
	2	日	牛島　支石墓	済州市
	3	月	雪緑博物館，コムングル（黒窯），テジョン城，大静郷校， 松岳山，ヨンモリ貝塚	西歸浦市
	4	火	新礼支石墓，新礼二里支石墓，新風里支石墓，婚姻池， 済州民俗村，映画博物館，倉川支石墓	西歸浦市
	5	水	柱状節理帯，薬天寺，法華寺址，正房瀑布，天地淵瀑布	西歸浦市
	6	木	済州文化芸術財団，オンピョン洞窟遺跡	済州市
	7	金	光令里周辺の支石墓	済州市
	8	土	加波島	済州市
	9	日	済州城址　済州空港－金海空港	釜山市
	10	月	金海空港－福岡空港－長崎	－

7　まとめ

済州島における先史時代から李氏朝鮮時代の遺跡を研修して感じたのは，三国時代～統一新羅時代の土器文化が進展しておらず，陶質土器等は韓国本土から持ち込まれた状況で一時期交易のルートから外れていた状況が遺物から見て取れたことであった。

済州島での主要遺跡をあげると，旧石器時代については表面採集の遺物が確認されているのみである。先史時代の資料は高山里遺跡・北村里遺跡（岩陰）があげられる。青銅器時代は，上摹里遺跡（貝塚），鉄器時代は光令里の支石墓群があげられる。三国時代から統一新羅時代では終達里貝塚がある。高麗時代では，法華寺址・三別抄址等の　朝鮮半島及び中国の支配形態に則した遺構遺物がでている。その後は，李氏朝鮮時代における済州牧官衙址等があげられる。

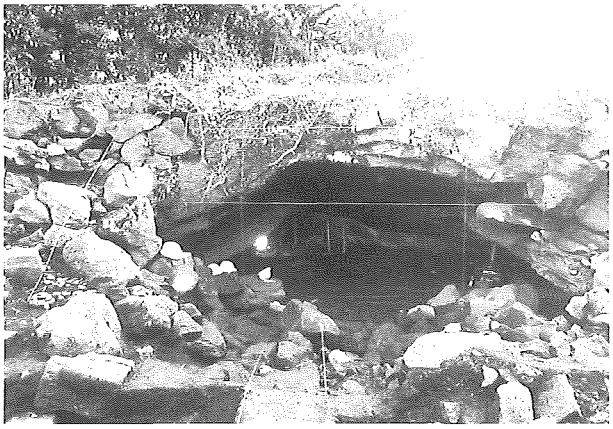
韓国で現在注目されているのは，2000年に世界遺産として指定された全羅南道の支石墓であるが，今後，済州島における研究も重要な位置付けとなろう。支石墓の規模は日本と比較にならない程に上石が大きく，4～5m級があたりまえの状況であった。ただし，下部構造については本格的な調査は実施されておらず，支石墓の所在する山間部と海岸部における性格の違いや実年代についてもさらに検討が必要な状況であった。

済州道庁文化藝術課の対応は大変丁寧であり，違和感なく研修ができた。日本における韓国側研修者の対応についても，通訳等万全の体制で受け入れる必要があろう。

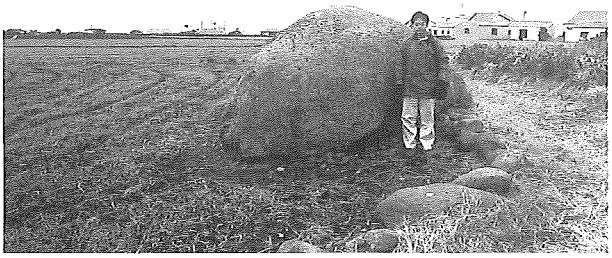
（荒　井）

済州道庁

龍潭洞支石墓



オンピョン洞窟遺跡



加波島の支石墓

8　「人面石の叫び!!」公募について

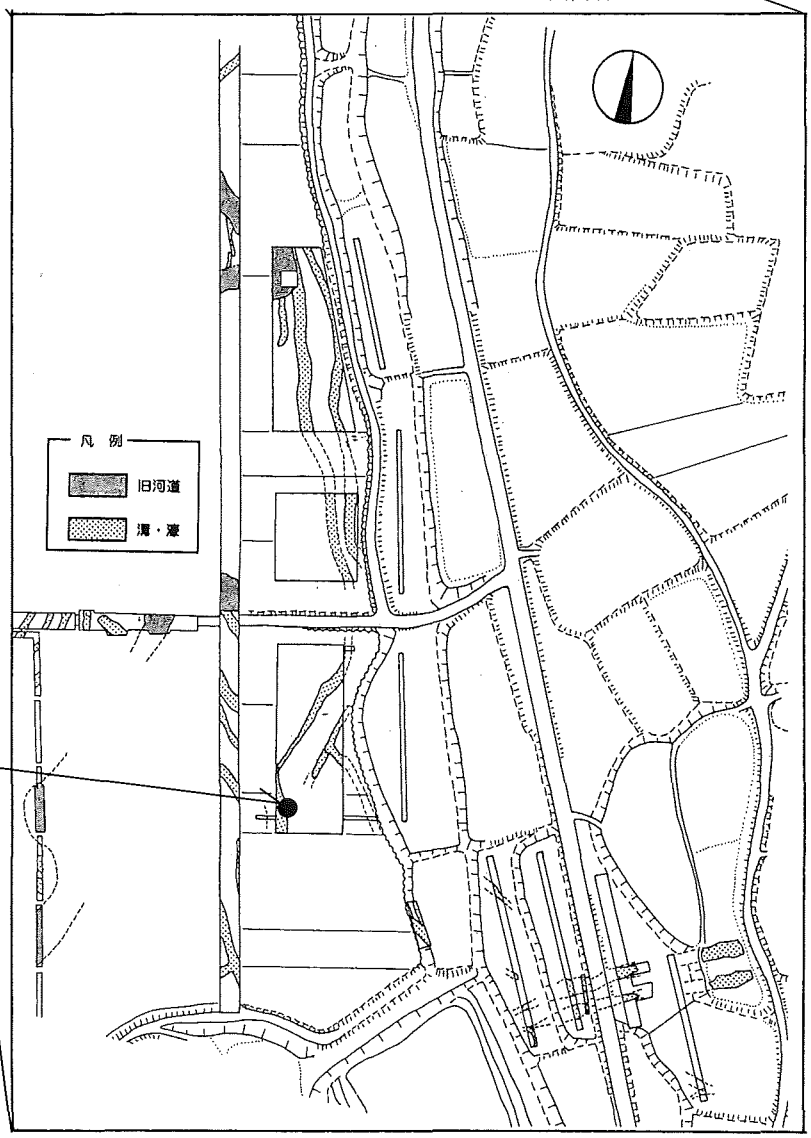
平成13年9月17日，原の辻遺跡の芦辺町八反地区の調査区から「人面石製品」が出土した。国特別史跡指定記念の遺跡展を壱岐・大阪・福岡で開催することもあり，県教育委員会と原の辻遺跡保存等協議会は，「人面石の叫び!!」と題する公募を行うこととした。これは，原の辻遺跡についてより多くの人々に知ってもらうことを目的とし，『人面石製品が何を語っているか』というテーマで実施した。平成13年11月から平成14年3月まで公募した。応募作品については，平成14年度に審査を行い優秀作品等を選定する予定である。

（荒　井）

原の辻遺跡

人面石

人面石出土状況



八反地区遺構分布図

三　調査の動向

1.〔調　査〕

2001年度の発掘調査総数は 132件で，調査原因の種別で見ると開発に伴う本調査25件，開発に伴う試掘及び確認調査77件，保存目的で実施された確認調査21件，遺跡整備を目的とする事前調査9件で，長崎県教育庁の集計によると調査実施の総面積は40,198㎡であった。調査原因が農業関係や道路・港湾関係など公共事業の占める割合が高いのは例年通りの傾向である。県内に配属されている埋蔵文化財専門職員の総数65名（内嘱託11名）で，その内訳は県22名（内嘱託6名），市町村43名（内嘱託5名）である。専門職員を配置する自治体数が３割以下の状況が続いている中，市町村合併の動きが加速化し統合範囲の具体的な姿が見え始めてきた昨今だが，職員実数に変化がないまま自治体数の減少により配置率のみが上昇して職員の担当面積拡大となるのか，自治体規模の拡大が専門職員の配置増を生み出すか，また壱岐・対馬・平戸諸島・五島列島と多くの離島を抱える本県だが，市部に吸収合併される可能性が高い離島町村の中で，専門職員を配置している小規模な１島１町村の現状が合併後も維持されるのか，特に危機感を持って関心を寄せている。

さて，本稿を起こすに当たっては，県教委をはじめ県内各地教委の担当者には大変お世話をおかけした。感謝申上げたい。また，文献や論文については筆者が知り得た範囲で整理したが遺漏もあろうかと思う，御容赦願いたい。

・旧石器時代

諫早市の下峰原高場遺跡から，枝去木型・百花台型の台形石器やナイフ形石器，１面加工角錐状石器，スクレイパー，鋸歯縁石器，彫器，石錐，細石刃など百花台東Ｉ石器群並行期と推測されるＡＴ降灰以後の石器群とピット群，及び縄文早期後半と縄文晩期前半の土器群，晩期の石器原材埋納ピットと石器製作作業場が検出されている。また，報告者は多数出土した草創期～早期の石鏃について，形態分類を主に時期区分を検討している。

96・97年度に調査された島原半島・国見町松尾遺跡の調査報告書（概報）が刊行された。遺跡は中期旧石器，後期旧石器初頭及び中期後半，縄文早・晩期，古墳中・後期の複合遺跡である。報告者は国府・九州・狸谷型ナイフ形石器群及び剥片尖頭器，３面加工三稜尖頭器などの一群を，その組成や技術的特徴から萩原博文編年の中期後半期相当の資料としている。また周縁調整石器（斜軸尖頭器）が出土している。周縁調整石器については報告者も指摘しているように近年様々な見解が提出されているが，長崎県下では初の出土例である。後期旧石器初頭資料には祖型ナイフ形石器・台形様石器・局部磨製石斧を示している。ただし，すべて縄文早期文化層に混在しての出土である。

・縄文時代

大村市で99・00年度に県教委が調査した近世城郭玖島城跡の調査報告書が刊行された。調査区から塞ノ神式・右京西式，曽畑式，船元式・春日式，坂ノ下式，宮下式，黒川式土器など早期末から晩期中葉までの各時期の土器が出土している。右京西式土器群は県内初出土であるが，早期末としては県下初例の同土器を伴う貯蔵穴も確認されている。宮下（富江）式土器の分布は従来五島列島及び対岸の本土沿岸域・対馬と主に海岸部にほぼ限られるが，今回の調査で大村湾岸への分布が確認された。

島原半島北部の国見町小ケ倉Ａ遺跡では，標高150ｍの高地から縄文早期の資料が得られている。調査自体は小規模なトレンチ調査だが，アカホヤを含む層の下層から右京西式土器が出土し，黒耀石原石の集積遺構も検出されている。平戸市の千里ケ浜遺跡で港湾環境整備事業に伴う緊急調査が県教委によって実施され，縄文前期から古墳時代前期にいたる資料が大量に出土している。調査地点は満潮時には海面下となる。遺物包含層は薄く，各時代の遺物が混在状態で出土している。縄文土器は轟Ｂ・プロト曽畑・曽畑Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ，船元・春日・並木，阿高系・中津など前期から後期前葉までの土器を主体とするが，曽畑式土器が最も多く次いで阿高系土器が多く出土したという。その他量的に多くはないが，布留式古・新段階の土師器，Ⅶ期の須恵器など古墳時代と古代の資料がある。注目されるのは文様構成が韓国新石器時代の櫛目文土器に類似する４点の土器資料である。報告者は「擬櫛目文土器」と表現している。器面をヘラ削りで調整し，基本的な文様構成は曽畑式土器に似て非であり，胎土に滑石を含まないなどの特徴がある。編年的には水佳里Ⅱ段階で阿高式並行期と推測されている。

諫早市に所在する風観岳支石墓群は，標高約200ｍ付近から風観岳の山頂（236m）にかけて多数の支石墓が群集している遺跡である。市は97年から01年度までの5年間にわたり風観岳支石墓群について詳細な分布状況と遺跡内容確認調査を行ってきた。風観岳支石墓群は75年の調査で合計35基からなる墳墓群とされてきたが，今回の調査ではＡ群＋3 ／Ｂ群＋9と計12基の支石墓が追加確認され，総数は計47基となった。更に支石墓上石の可能性があるものとしてＡ群13／Ｂ群39／Ｃ群1の計53か所をあげている。75年の県教委の調査では2基が精査され，いずれも下部構造は土坑であったが，今回の調査で精査した12基の内下部構造が石棺のもの9基，土坑のもの3基で，下部構造に２種類がある事も確認されている。石棺・土坑ともに主軸方位は基本的に東西であった。出土土器の種別は縄文・弥生・中世・近世とあるが弥生土器はわずか 1点のみで，この支石墓群の大半の造営時期が縄文晩期であることが知れる。また，遺物の出土状況からＡ地区に隣接するＤ地区は居住区の可能性が指摘されている。

・弥生時代

対馬・峰町では三根遺跡の調査が99・00年度に引き続き行われた。遺跡は標高8～18ｍの舌状台地に立地する弥生後期から古墳初頭の集落遺跡で，朝鮮半島系無文土器やミニチュア土器，石剣，石鏃，鉄器，鉄滓などが出土している。対馬では当該期の墳墓遺跡は多く知られているが集落遺跡の調査は無く，期待がかけられている。

北松浦郡田平町の里田原遺跡から，長崎県内では初めての多紐細文鏡が出土した。里田原遺跡は周囲を低位な丘陵地帯に取り囲まれた約40ヘクタールの水田地帯を中心に展開する西北部九州の弥生時代を代表する遺跡の一つで，1972年以来41次の調査が実施されておりこれまでにも木器を始め豊富な遺物が出土しているが，97年度から初めて墳墓群が調査された。墳墓形態にはカメ棺・石棺・石囲木棺・石蓋木棺（支石墓か？）・土坑など各種あり，おおよそ17基から鉄剣・鉄製鉇・銅釧・碧玉管玉・ガラス小玉・赤色顔料などの副葬品が検出され，多紐細文鏡は00年度に中期初頭のカメ棺から出土したと報告されている。また，同報告書は97年度調査（37次）の概要も同時記載しているが，抉入石斧・偏平磨製石斧各２点の計４点が重ねられた状態で出土した事が報告されている。

壱岐・郷ノ浦町が99.00.01年度に実施した車手・戸田・大谷遺跡の調査報告書が刊行された。この３遺跡は近接位置にある。車手遺跡では弥生中期のＶ字溝１条とＵ字溝２条が確認され，弥生中期～

後期の土器に混って方格規矩鏡・小形・製鏡・貨泉・銅鏃などが出土している。戸田遺跡では車手遺跡方向に向けて伸びる，弥生中期～後期のＶ字溝１条が確認され，両遺跡のＶ字溝は連結する可能性が強いと推測されている。環濠があることや出土遺物の質などから，原ノ辻遺跡を盟主とする勢力の壱岐島西部拠点集落と考えられている。

一支国王都として国特別史跡に指定されている壱岐・原ノ辻遺跡では，01年度も県原ノ辻遺跡調査事務所・原ノ辻遺跡保存等協議会・芦辺町・石田町によってそれぞれ調査が行われ多くの成果があがっている。一括して報告する。遺跡のほぼ中央部に位置する丘陵最高地点に付設された「中央祭儀場」の東側に隣接する地域で，弥生中期後半～後期後半に建設された10基の住居址群や土坑14基，後期後半の道路状遺構などが検出された。また「中央祭儀場」及び周辺で弥生中期後半～古墳時代前期にかけて建築された大型竪穴式住居の4棟めが確認された。この調査区では弥生中期から古墳前期の土器，石器，鉄鎌・鉄鏃・鋳造袋状鉄斧・鉄鑿・有茎形銅鏃・牛角状銅製品などの金属器やガラス小玉などが堆積土から出土している。〈以上芦辺町〉　遺跡南東端部に位置する原池の南側では，新たに弥生中期のＶ字溝が確認された。原池の北側の石田大原地区の調査ではカメ棺22基，石棺2基，土壙9基合計33基の墳墓が検出されている。内カメ棺は16基が中期に，4基が後期前葉に属する。土壙墓からは遺物が出土せず時期の特定は難しいが，調査者は周囲のカメ棺が全て中期であることから同一時期の可能性が高いと報じている。これらの墳墓の内カメ棺5基，石棺1基（もう1基は未調査）から副葬遺物としてガラス小玉68点・勾玉2点・碧玉？製管玉23点が出土している。その他，堆積土からも多量の遺物が出土している。土器・石器以外の主なものを取上げると有茎形銅鏃25本以上，王莽鏡1面，多鈕細文鏡，細形銅剣4点など金属器。朝鮮半島原産アマゾナイト製小玉2点，翡翠製垂飾品1点，ガラス小玉53点などで，これらは本来墳墓の副葬品であったと考えられている。今次の調査で，石田大原地区墓域がさらに西側へ広がる事，従前前期末から中期とされたこの墓域の時期が後期前葉まで続く事が確認された。〈以上石田町〉　遺跡のほぼ中央部，八反地区西側の台地側縁に設定された「コヨウ４区」では弥生後期初頭に掘削された濠1条，溝2条と同時期の旧河道跡1本，古代～中世の畦畔状遺構が検出された。これらの遺構から出土した土器・石器以外の主な遺物には，原ノ辻遺跡では 2 例目の床大引材をはじめ大型板材などの建築部材や横槌・木鍬などの木器。貨泉・銅釧・銅鏃・後漢代長宜子孫系連弧文鏡・鍛造袋状鉄斧・鉄鑿など金属器。その他朝鮮半島系瓦質土器・無文土器，ガラス小玉，がある。最も注目されるのはＳＤ－５濠内の二か所から，獣骨や骨角製品などと一緒に多数の人骨が散乱状態で出土した事である。人骨は10人分以上あり，男女・大人子供が混じっている。これらは，この濠が廃棄された時点で濠底に投棄された可能性が高いと見られている。〈以上原ノ辻遺跡保存等協議会〉　「コヨウ４区」の南側に設定された調査区では濠2条，溝1条を検出し，朝鮮半島系土器・鍛造鉄斧・切子玉・人面石が出土した。また，環濠外の南側に位置する原ノ久保墓域隣接地の調査区では新たに石棺1基，石蓋土壙墓1基，カメ棺墓8基の計10基が確認された。カメ棺墓の時期は1基が中期で他は後期に属する。なお6号は三重甕棺墓である。苣ノ木地区の調査ではカメ棺墓5基，石蓋土壙墓1基，石棺墓1基が出土した。副葬遺物には石蓋土壙墓の小玉151個と後期の丹塗土器，5号カメ棺墓の銅製釦がある。カメ棺は全て小児棺で，後期中葉ころに比定される。〈以上原ノ辻遺跡調査事務所〉

・古墳時代

長崎県の古墳は原則的に離島及び本土の沿岸部にその分布が限られ，九州各県と比較してその数は極端に少なく，しかも半数以上は壱岐島に集中しているという地域的特性がある。

対馬・厳原町教育委員会は00年度に引き続き，矢立山古墳群の発掘調査を福岡大学考古学研究室と合同で実施した。矢立山古墳群は1948年に東亜考古学会によって調査がなされ，横穴式石室を有する円墳として２基が確認されていたが00年度の調査で新たに１基が追加確認され１・２・３号墳と命名された。01年度は２・３号墳の調査が行われ，１・２号墳は３段築成の方墳，３号墳は１段築成の長方形墳でいずれも基盤岩の破砕石材を積み上げるという特異な構造である事が確認された。【２号墳】墳丘は方形の上中下三段築成で現存墳高1,5m，下段東西8m・南北10m，中段東西5,5m・南北6,9m，上段東西3,2m・南北3,1m。内部主体はＴ定規の型をなす横長の横穴式石室で，玄室は幅0,5m長さ3,7m。羨道部は幅0,95m，長さ3,2m，高さが1,25mあり，羨門部前には幅約1,3m，長さ約1,6mの前庭がしつらえてある。【３号墳】墳丘は長方形の一段築成で現存高1,7mで，復元高は2,2mと推定されている。本墳は7m×4,5mの長方形に構築されており，内部主体は両袖式単室の横穴式石室である。玄室の長さは2,47m，幅1,31m，高さ1,16mで，玄門部の幅は0,63mある。３号墳からは鉄刀・鉄鏃・土師器（碗）・須恵器（蓋・平瓶）が出土しており，２・３号墳共に７世紀後半代の築造とされた。時期は異なるものの，１・２号墳の復元外観は一見ソウル石村洞古墳群の百済「基壇式積石塚」を連想させ，対馬ならではの感がある。

小値賀（おぢか）町では神方古墳の発掘調査が実施された。調査は矢立山古墳群と同様，遺跡整備を目的とする内容確認調査で，福岡大学考古学研究室の実習参加を得て合同で調査された。五島列島は南北約90㎞に渡り大小140余の島々からなる群島だが古墳は小値賀町に２基が確認されているのみで，7世紀前半築造の水ノ下古墳は辛うじて痕跡を残す程度まで破壊されているため，実質的には神方古墳が五島列島に現存する唯一の古墳である。調査の結果，封土はほとんど失われているが主体部は両袖式横穴式石室で比較的保存状態が良く，玄室は幅1,9m，長さ3,12m，羨道部は幅約1,20m，長さ4,24m，現存全長が7,36mある比較的大形の石室を有する。玄門部に天井石が１個残されており，羨道部の高さは1,4m程度と思われる。玄室・羨道部の流入土中から12世紀中葉～13世紀後半期を主体とする中国陶磁器が多数出土しており，かなり早い時期に盗掘を受けたものと推測される。玄室内に天井石１個が折損落下しており，その下部を中心に平根式鉄鏃・尖根式鉄鏃・鉄刀・鉄矛・石突・鞘金具など武器類，杯身・杯蓋・碗・大甕・平瓶・壺などの須恵器，耳環（金環）が出土している。須恵器には３形式あって築造時期が6世紀末から7世紀前半，追葬が行われたものと思われる。肥前国風土記は五島列島には『多くの島があるが，有人の島は土蜘蛛大耳が居る小近（おぢか）と，土蜘蛛，垂耳が居る大近（おおちか）しかなく，島民は騎射をよくする。』とある。神方古墳出土の武器類は海を舞台に活動する武人の姿を彷彿とさせる。肥前国風土記の記事と照合して，この古墳の被葬者が「大耳」とは断ぜないまでも，その系譜上にある者という推測は許されよう。

・古　　代

対馬・美津島町で朝鮮式山城の金田城で調査が行われた。発掘調査は93年から毎年実施されており，01年度は93・97年度調査で日本書紀記載の金田城築城年とは異なる時期の拡幅土塁や新たな門址が確認されたビングシ鞍部が調査され内部に炉跡を有する掘立柱建物跡（１間×３間）とこの建物をＬ字

条に囲む柱穴列などが検出された。報告者は，金田城出土の須恵器は7世紀第３四半期を中心とするものがほとんどを占める事。8世紀の須恵器が無い事。炭化物のＣ14年代測定結果は7世紀前半代の数値が多い。という事などから金田城は7世紀前半には存在したと考えられ，日本書紀が築城年と伝える667年は金田城の機能が整った時期で，8世紀にはその機能が停止したのではないかとしている。

・中　　世

大村市は中世末～近世初頭の大村氏に関わる三城城址の調査を実施した。記録によるとこの城はキリシタン大名として名高い大村純忠が1564年に築城し，徳川幕府下で最初の大村藩主となる嫡子善前が玖島城を築城して移住した1599年まで領国支配の拠点であり，1637年の廃城まで機能したという。縄張りの範囲はおおよそ400ｍ×300ｍで，三つの曲輪を中心に小さな曲輪が南北に配置されている。01年度は曲輪Ⅱに付属する東南部の帯曲輪と，曲輪Ⅰ（主郭部）に付属する東南部の帯曲輪が調査され，それぞれ空掘や土塁が良好な遺存状態で確認されている。遺物は中国・朝鮮・国産の陶磁器を主体に茶石臼や球状の鉛製銃弾などが出土しており，これらの遺構は１６世紀後半～末に構築されたものと判断されている。また，同市は三城城に続く大村氏の居城であった玖島城の一部について，公園造成に関連した事前調査を実施し新たに土塁を確認した。また，99・00年度の県教委調査区からは，近世初期の朝鮮丸瓦・平瓦約70点が出土している。

鷹島（町）が浮ぶ伊万里湾は13世紀末に襲来した元軍日本遠征艦隊が暴風雨により一夜にして沈没・壊滅した海域として知られていたが，80年に初めて海底調査が行われ遺跡内容の一端が知られるに至った。特に鷹島の南側海域で遺物が集中発見された事から，81年に長崎県は約150万㎡の海域を周知の遺跡とした。鷹島町は92年度以来計画的に調査を継続実施し回収遺物を通して数多くの成果をあげてきたが，この調査にはもう一つ重要な要素がある。四囲を海で囲まれた日本の文化形成過程において，その時々を積載したタイムカプセルが人知れず海底に沈んでいる事は容易に推測できるし，事実知られている例も多い。ただ水中という特殊環境のため，陸上遺跡の調査で得た経験則が必ずしも通用しない面もある。国内で広域かつ長期に渡る海底遺跡の調査例として唯一の鷹島は，方法論や技術論などそうした水中考古学に関する様々な課題解決を目指す実践現場としても貴重な役割を果たしてきたのである。さて，01年度の調査は神崎港地区を対象として２次に渡って実施された。今次の調査の成果は３点に絞られる。１点は元軍船関係遺物の埋蔵地層が特定されたことがある。事件当時の海底面の確認により今後の調査計画の立案基準となる。第２点は船体の規模や構造の手掛かりとなる部材が初めて確認されたことである。報告書によれば外板や隔壁の厚み・幅などの法量が新安船に近いという。加工されたり鉄釘が打ち込まれた様々な部材が大量に出土しており，中には焼けて炭化したものもある。第３点は豊富な積載遺物が回収されたことである。種別に列挙すれば，刀剣・鹿角製柄・矢束・赤漆小札・てつはうなどの武器・武具類。船舶関係では船体部材・碇石・縄・磚・釘など鉄製品。青磁碗・青磁鎬蓮弁文碗・青磁小杯・白磁碗・白磁皿・褐釉四耳壷・褐釉短頸壷・鈞窯鉢・高麗青磁など中国・朝鮮陶磁器。その他，帯金具・銅銭・銅匙・銅鍋・人骨などがある。なお，元代の鈞窯製品は国内では初出土だという。

山見沖海底遺跡は92年に16世紀末～17世紀初頭のタイ陶器を確認した事で所在が明らかとなった遺跡で，五島列島北端の小値賀島（町）に所在する。今次の調査は範囲及び内容確認を目的に，鷹島同様九州沖縄水中考古学協会に事業委託して実施した。遺跡は陸地から約60ｍ沖合に位置し，水深は5

m以下で海底は岩礁地帯である。遺物の分布範囲は長さ約80m×幅約30mで，北部に径20mほどの集中地点がある。かなり大量の遺物が岩礁岩塊の間に挟まった状態で散布している。回収サンプル87点は，2点を除いて全てが推定タイ・ベトナム・中国などで生産された陶磁器で，16世紀前半～中葉の景徳鎮青花皿など4点，19世紀代肥前磁器碗2点，16世紀第４四半期～17世紀初頭の黒褐釉四耳壷・陶器鉢・足杯臼・蓋・ハンネラの壷や蓋・焼締陶器四耳壷・移動式竈の一部などがあり，中でもタイ製品が最も多い。海底の特定範囲に特定時期の陶磁器が大量に存在し，生産時期が異なる景徳鎮青花皿や足杯臼・移動式竈など船上生活に使用されたと思われる物資が混在する状況から，その来歴は沈没した船舶の積載物である可能性が最も高い。沈没の原因は水深の浅い岩礁地形や海流の早さから，何らかの理由で座礁したものと推測される。この沈船の性格や所属国，発船地や目的地などなお検討を要する問題が残されているものの，この時期の沈没船積載物の確認は国内では初例である。この一括遺物は堺・博多・長崎など陸上の中世遺跡群出土の貿易陶磁器編年資料としても貢献し得るものであり，また，中世末期から近世初頭にかけて中国や東南アジア諸国との間で活発に行われた日本との交易活動の一端を示す事実資料としても意義が与えられよう。

・近世以降

長崎市は69年以来断続的に出島の発掘調査を実施してきたが，96年以降は出島復元構想のもと本格的な取組みを行っている。01年度は建物 6棟の復元のため三番倉・筆者頭部屋・カピタン部屋・乙名部屋などの跡地から礎石列や廃棄土坑が検出され，ワインボトルや国産陶磁器・西洋陶器，ライン堯器，ガラス製品など総数74,000点もの遺物が出土している。中でも目的や時期は明確でないが，19世紀中葉に西欧で製造された拳銃が銃弾とともに埋納状態で出土し，出島らしいと話題となった。護岸石垣の調査では江戸時代の弧状石垣線が南側で確認された。

佐世保市三川内の平戸藩御用窯跡の調査では，代官所跡地の1660年代地層から赤絵磁器が出土した。平戸焼とも称される三川内焼の創業は1622年で，赤絵技法は佐賀県有田で酒井田柿右衛門が1647年に創始したとされ，三川内での赤絵生産は記録上1830年代以降であった。今回の調査で三川内での赤絵技術導入が17世紀中葉であることが確認された。

三川内と同様に陶磁器の産地である波佐見町でも広川原窯跡と高尾窯跡の調査が行われている。広川原窯跡は中尾窯跡群に属し，この地区の窯業創始期は1644年とされているが，今次の調査でこの窯の操業は1640～50年代を中心とする期間である事が判明し，中尾窯跡群創始期のものと考えられる。また，皿山窯跡群に属する高尾窯跡は17世紀～18世紀の操業と判断されたが，陶磁製品や窯道具が大量に出土している。

平戸市の和蘭陀商館跡地調査は88年から断続的に実施されている。第6次となる01年度には1639年築造の三階建石造倉庫の西端部基礎遺構が確認され，建設位置の特定とともに基礎構造が明らかとなった。これによって建設の基準寸法も確認され，資料と照合した結果倉庫は長さ46,2m，幅13,6m，高さ7,3mの大規模な建造物であった事が判明した。建築部材としては瓦・レンガ・石材・漆喰などが出土しており，特に瓦の種類から本瓦葺きであったと推測された。この倉庫は徳川幕府による平戸和蘭陀商館破壊命令の端緒となった施設であるが，これらの成果は平戸市が進めている和蘭陀商館復元整備事業の進展にも重要な意義を持つ事になろう。

五島列島・小値賀町の笛吹遺跡で近世期初頭の民家跡が検出された。遺構には柱穴群と放棄された

井戸跡がある。柱穴の一部から17世紀前半の肥前スリ鉢が出土し，井戸跡の投棄石材に混じった17世紀後半の波佐見焼青磁碗と投棄石材直上面に据え置かれた17世紀後半の二彩手鉢等から17世紀前半に建築され，17世紀後半代頃に放棄された掘立柱様式の民家跡と推測される。また，覆土から17世紀後半・18世紀前半・18世紀後半代の有田・波佐見・三川内産の陶磁器も出土している。当地方ではこうした時期の一般的民家の建築様式や物資流通に関する文献資料は全く残されておらず，当時の住宅構造や陶磁器産地から推測される経済交流圏の広がりなど，庶民の生活ぶりを知るに格好の資料が得られた。

・研究会など学会活動

長崎県考古学会は春の総会（長崎市内）と秋季研究会（県内各地に会場移動）を毎年開催しているが，01年度総会では00年度の主要遺跡調査事例として田平町里田原遺跡，有明町一野遺跡，国見町内遺跡（石原矢房遺跡・小中野Ａ・Ｂ遺跡・十園遺跡・五万長者遺跡），美津島町水崎遺跡，長崎市唐人屋敷について概要報告があった。秋季研究会は壱岐島芦辺町で日韓の交流をテーマに２日間に渡って行われ，１日目は鄭澄元「先史時代の韓日交流」，小畑弘己「韓日旧石器時代の交流」，高野晋司「壱岐・対馬海峡の考古学」，河仁秀「東三洞貝塚の調査と韓日新石器時代の交流」が，翌２日目には甲元眞之「環日本海の漁労文化と人」，正林護「土器から見た縄文時代の交流」と各氏による講演などがあった。また，機関紙「長崎県考古学会報」№10を発行している。西海考古同人会は，同人誌「西海考古第４号」と会紙「西海ニュース」25号・26号を刊行した。また，第12回九州縄文研究会が「九州の縄文墓制」をテーマに同会によって島原市で開催され，九州各県の縄文墳墓について活発な研究討議がおこなわれた。

２．〔文献一覧〕

報　告　書　（「文報」は「文化財調査報告書」の略）

１．小田富士雄・武末純一『矢立山古墳群発掘調査概報（２）』厳原町文報第6集　町教育委員会 (2002, 3)

２．小石龍信・松崎卓郎『原の辻遺跡』原の辻遺跡保存等協議会報告書第3集　原の辻遺跡保存等協議会 (2002, 3)

３．河合雄吉『原の辻遺跡』石田町文報第5集　町教育委員会　(2002, 3)

４．山口　優『原の辻遺跡』芦辺町文報第13集　町教育委員会　(2002, 3)

５．町田一久ほか『原の辻遺跡』原ノ辻遺跡調査事務所調査報告書第24集　県教育委員会 (2002, 3)

６．安楽勉ほか『原の辻遺跡』原ノ辻遺跡調査事務所調査報告書第25集　県教育委員会　(2002, 3)

７．白石純悟『車出遺跡・戸田遺跡・大谷遺跡』郷ノ浦町文報第4集　町教育委員会 (2002, 3)

８．林田憲三・松尾昭子『鷹島海底遺跡Ⅵ』鷹島町文報第5集　町教育委員会　(2002, 3)

９．松尾昭子『鷹島海底遺跡Ⅶ』鷹島町文報第6集　町教育委員会　(2002, 3)

10．塚原博・小田冨士雄ほか『神方古墳』小値賀町文報第15集　小値賀史談会・町教育委員会 (2002, 3)

11．林田憲三・ほか『山見沖海底遺跡』小値賀町文報第16集　九州沖縄水中考古学協会・町教委 (2002, 3)

12. 福田一志ほか『千里ケ浜遺跡』長崎県文報第168集　長崎県教育委員会　(2002.3)
13. 古門雅高ほか『県内主要遺跡内容確認調査報告書Ｖ』長崎県文報第165集　長崎県教育委員会(2002.3)　　宇久町長崎鼻遺跡，島原市礫石原遺跡
14. 福田一志ほか『玖島城跡』長崎県文報第167集　長崎県教育委員会　(2002.3)
15. 秀島貞康・ほか『下峰原高場遺跡』諫早市埋蔵文化財調査協議会報第4集　市埋文調査協議会(2002,3)
16. 川瀬雄一・橋本幸男『風観岳支石墓群』諫早市文報第15集　市教育委員会　(2002,3)
17. 中田敦之・明石拡子『下谷遺跡』松浦市文報第18集　市教育委員会　(2002,3)　縄文後～晩，弥，古，中世
18. 荒井春房『長崎県埋蔵文化財調査年報９』〔平成12年度調査分〕長崎県文報第164集　長崎県教育委員会　(2002.3)
19. 本田秀樹ほか『森岳城跡』長崎県文報第166集　長崎県教育委員会　(2002.3)　中～近世城郭：島原城

論文その他

20. 長崎県島原大会事務局『九州の縄文墓制』第12回九州縄文研究会発表要旨・資料　九州縄文研究会(2002,3)　（１）古門雅高　「長崎県の縄文時代墓制」
21. 正林　護「長崎県考古学史」『九州考古学』第75号　九州考古学会　(2001,7)
22. 下川達彌「日本の三彩の流れと長与三彩」『長与皿山窯跡』長与町文化財調査報告書第7集町教育委員会
23. 下川達彌『長崎のやきもの～火と炎の里～』単行本　(2001,12)
24. 長崎県教育委員会『発掘「倭人伝」』「海の王都，壱岐・原の辻遺跡展」図録　長崎県教育委員会　(2002,2)
25. 西海考古同人会事務局『西海ニュース25号』西海考古同人会　(2001,6)
    （１）川口洋平「長崎県における音楽考古学～出土楽器および関連資料に関する試論」
    （２）古門雅高「小値賀の縄文土器」
26. 西海考古同人会事務局『西海考古第４号』西海考古同人会　(2001,12)
    （１）高原　愛「諫早市牛込Ａ・Ｂ遺跡群の局部磨製石鏃と土器」
    （２）大野安生「黒丸遺跡沖田地区出土土器の検討～黒川式から山ノ寺式までの編年試案～」
    （３）塚原　博「五島列島出土の石製装身具と異形の磨製石製品」
    （４）高野晋司・田中由美子「縄文時代の石製装身具集成（長崎県）」
    （５）市川浩文・美浦雄二「縄文時代の石製装身具集成（佐賀県）」
    （６）宮崎貴夫「原の辻遺跡における歴史的契機について」
    （７）竹中哲朗「一野古墳群出土土器の編年」
    （８）竹中哲朗「前島古墳群の検討」
    （９）中野雄二「波佐見製品の海外輸出～17世紀後半代を中心として～」
    （10）藤木　聡「(資料紹介）長崎県松浦市津崎鼻遺跡群の石器群～黒耀石原産地周辺の一石器群～」

(11) 辻田直人「(資料紹介) 長崎県立国見高等学校考古資料館所蔵の丸ノミ形石斧～」
(12) 辻田直人「(資料紹介) 国見町矢房遺跡一括出土遺物について～国見町発掘調査より」
27. 長崎県教育委員会『壱岐国探訪』原ノ辻大学講座記録集 (2002,3)
(1) 西谷 正「東アジアの中の一支国」
(2) 中野篤志「原ノ辻遺跡発掘調査報告」
(3) 寺澤 薫「弥生都市はあったか」
(4) 安楽 勉「原ノ辻遺跡発掘調査報告」
(5) 木下尚子「勾玉の話～縄文から古代まで」
(6) 藤村 誠「原ノ辻遺跡発掘調査報告」
〔補追文献一覧〕(2000年度分の補遺)
28. 塚原 博『小値賀島史の概要』 ウエスレアン短期大学 (2000,11)
29. 中園成生『くじら取りの系譜』 長崎新聞社 (2001, 1)
30. 甲元眞之『中島遺跡発掘調査報告書』環東中国海沿岸地域の先史文化第5編 熊本大学考古学研究室(2001,3)
31. 諫見富士郎・ほか『大野原遺跡』有明町文報第12集 町教育委員会 (2001,3) 縄文後期, 古代
32. 古門雅高・ほか『東鷹野遺跡』有明町文報第13集 町教育委員会 (2001,3) 縄文早期・後期・晩期
33. 河合雄吉『天水遺跡』石田町文報第4集 町教育委員会 (2001,3) 中世後期～近世前期集落址
34. 山口 優『特別史跡原の辻遺跡』芦辺町文報第1集 町教育委員会 (2001,3) 弥生墳墓群, 弥・古・中世
35. 岸本真美『双六古墳発掘調査概報』勝本町教育委員会 (2001,3) 後期古墳。全長91mの前方後円墳
36. 小田富士雄・武末純一『矢立山古墳群発掘調査概報 (1)』厳原町文報第5集 町教育委員会 (2001,3)
37. 田中淳也・ほか『水崎 (仮宿) 遺跡』美津島町文報第1集 町教育委員会 (2001,3) 中世期集落址
38. 中田敦之・明石拡子『松浦市内遺跡確認調査 (3)』松浦市文報第16集 市教育委員会 (2001,3)
39. 中田敦之・明石拡子『田口高野遺跡』松浦市文報第17集 市教育委員会 (2001,3) 旧石器, 縄文
40. 松尾昭子『鷹島海底遺跡Ⅳ』鷹島町文報第3集 町教育委員会 (2001,3) 中世, 元寇関連海底遺跡
41. 馬場聖美『里田原遺跡』田平町文報第8集 町教育委員会 (2001,3) 弥生墳墓群, ほか

(小値賀町教育委員会 塚原 博)

四　長崎県教育委員会発行調査報告書一覧①

No.	報　告　書　名	発行年月
第1集	長崎県遺跡地名表　埋蔵文化財包蔵地一覧	1962,
第2集	五島遺跡調査報告	1964,
第3集	民族資料調査報告書	
第4集	福井洞穴調査報告（図録編）	1966,
第5集	深堀遺跡	
第6集	男女群島特別調査報告	1968,3
第7集	宮下遺跡調査報告（図録編）	1968,3
第8集	対馬－豊玉村佐世保シゲノダン・唐崎の青銅器を出土した遺跡の調査報告－	1969,
第9集	宮下遺跡調査報告（解説編）	
第10集	堂崎遺跡調査報告書（長崎県長与町所在）	1970,9
第11集	有明海沿岸地区の民俗	1972,3
第12集	長崎県の民家（前編・後編）	1972,3
第13集	対馬西岸阿連・志多留の民俗	
第14集	里田原遺跡（図録）	1972,
第15集	下五島貝津・大串の民俗（本文編・図録編）	1974,3
第16集	対馬の文化財	
第17集	対馬－浅茅湾とその周辺の考古学調査－	1974,3
第18集	里田原遺跡（略報Ⅱ）	1974,
第19集	壱岐の文化財	
第20集	対馬の遺跡	1975,
第21集	里田原遺跡	1975,3
第22集	下五島の文化財	
第23集	長崎県民俗地図	1976,3
第24集	諫早北バイパス関係埋蔵文化財調査報告　第１集（図録編）	1975,
第25集	里田原遺跡	1976,3
第26集	原の辻遺跡	1976,
第27集	西彼杵半島猪垣分布調査概観	1977,1
第28集	平戸市野子地域の民俗・福島町土谷の民俗（上・下）	1977,3
第29集	長崎県のカトリック教会	1977,3
第30集	旧島原藩薬園跡環境整備報告	1977,
第31集	原の辻遺跡（Ⅱ）－長崎県壱岐郡所在の弥生遺跡－	1977,3
第32集	里田原遺跡	1977,
第33集	金石城跡緊急発掘調査報告書	1977,3
第34集	長崎県の民俗芸能・民謡（Ⅰ）採譜篇・別冊	
第35集	長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅰ	1978,
第36集	世知原町開作免の民俗	1978,3
第37集	原の辻遺跡（Ⅲ）－長崎県壱岐郡所在の弥生遺跡－	1978,
第38集	里田原遺跡	1978,
第39集	日蘭関係資料	1979,3
第40集	平戸・上五島地区の文化財	1979,3
第40集の2	平戸・上五島地区の文化財（美術工芸品の部）	1979,3
第41集	長崎県の民俗芸能・民謡（Ⅱ）採譜篇	1979,3
第42集	長崎県の海女（海士）	1979,3
第43集	長崎県の民俗芸能・民謡（Ⅲ）	1979,3
第44集	松浦市とその周辺地区の文化財	1979,3
第45集	長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅱ	1979,
第46集	大村湾の漁労習俗	1980,3
第47集	長崎県の民俗芸能・民謡（Ⅳ）	1980,3
第48集	キリシタン関係資料	1980,3
第49集	佐世保市とその周辺地区の文化財	1979,
第50集	長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅲ	1980,
第51集	串島遺跡	1980,3
第52集ａ	ケイマンゴー遺跡	1980,9
第52集ｂ	長崎県の民俗芸能・民謡（Ⅴ）	1981,3
第53集	諫早・大村・北高来郡の文化財	1981,3

四　長崎県教育委員会発行調査報告書一覧②

No.	報　告　書　名	発行年月
第56集	九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅱ	1982,
第57集	長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅴ	1982,
第58集	堂崎遺跡－長崎県有家町所在の海中干潟遺跡－	1982,3
第59集	島原・南高の文化財	1982,3
第60集	針尾人崎遺跡－佐世保市針尾中町所在－	1982,3
第61集	長崎唐寺関係所蔵品目録	1982,3
第62集	長崎・西彼の文化財	1983,3
第63集	橘湾の漁労習俗	1983,3
第64集	九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅲ	1983,
第65集	諫早中核工業団地造成に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅰ	1983,3
第66集	長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅵ	1983,3
第67集	長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅶ	1984,3
第68集	今福遺跡Ⅰ　県道矢次・南有馬線改良工事に伴う埋蔵文化財調査報告書　第一冊	1984,3
第69集	九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅳ	1984,
第70集	長崎県の農具調査（前編）	1985,3
第71集	名切遺跡	1985,3
第72集	九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅴ	1985,
第73集	西ノ角遺跡	1985,
第74集	諫早中核工業団地造成に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅱ	1985,
第75集	長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅷ	1985,
第76集	楼楷田遺跡　松浦火力発電所建設に伴う埋蔵文化財調査報告書	1985,
第77集	今福遺跡Ⅱ　県道矢次・南有馬線改良工事に伴う埋蔵文化財調査報告書　第二冊	1985,
第78集	百花台遺跡	1985,3
第79集	長崎県の近世寺社建築　　近世寺社建築緊急調査報告書	1986,3
第80集	長崎県の農具調査（後編）	1986,3
第81集	上原遺跡	1986,
第82集	長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅸ	1986,3
第83集	殿崎遺跡	1986,
第84集	今福遺跡Ⅲ　県道矢次・南有馬線改良工事に伴う埋蔵文化財調査報告書　第三冊	1986,3
第85集	諫早中核工業団地造成に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅲ	1986,3
第86集	長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅹ	1987,3
第87集	長崎県遺跡地図	1987,3
第88集	長崎県の民謡	1987,3
第89集	温泉岳　保存管理計画策定書	1988,3
第90集	中道壇遺跡	1988,3
第91集	長崎県埋蔵文化財調査集報ⅩⅠ	1988,3
第92集	百花台広域公園建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書	1988,3
第93集	九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅵ	1989,
第94集	長崎県埋蔵文化財調査集報ⅩⅡ	1989,3
第95集	魚洗川Ｂ遺跡－全国植樹祭会場造成工事に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書－	1990,3
第96集	長崎県の諸職調査	1990,3
第97集	長崎県埋蔵文化財調査集報ⅩⅢ	1990,3
第98集	九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅶ	1990,
第99集	九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅷ	1991,
第100集	礫石原遺跡－県道愛野～島原線改良工事に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書－	1991,3
第101集	長崎県埋蔵文化財調査集報ⅩⅣ	1991,3
第102集	対馬天然記念物緊急調査報告書	1991,3
第103集	長崎県天然記念物実態調査報告書－対馬を除く－	1991,3
第104集	長崎県埋蔵文化財調査集報ⅩⅤ	1992,3
第105集	上大垣遺跡	1992,3
第106集	県内古墳詳細分布調査報告書	1992,3
第107集	大陸渡来文物緊急調査報告	1992,3
第108集	長崎県埋蔵文化財調査集報ⅩⅥ	1993,3
第109集	県内重要遺跡範囲確認調査報告書	1993,3
第110集	長崎県遺跡地図－長崎市・諫早市・大村市・西彼杵郡・北高来郡地区－	1994,3
第111集	長崎県遺跡地図－島原市・南高来郡地区－	1994,3
第112集	長崎県遺跡地図－壱岐地区－	1994,3
第113集	長崎県埋蔵文化財調査年報Ⅰ	1994,3
第114集	県内重要遺跡範囲確認調査報告書Ⅱ	1994,3

四　長崎県教育委員会発行調査報告書一覧③

No.	報　告　書　名	発行年月
第115集	中木場遺跡－水無川第３遊砂地造成工事に伴う発掘調査報告書－	1994,3
第116集	県道国見雲仙線改良工事に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書	1994,3
第117集	長崎県遺跡地図－福江市・南松浦郡地区－	1995,3
第118集	長崎県遺跡地図－対馬地区－	1995,3
第119集	長崎県遺跡地図－佐世保市・平戸市・松浦市・北松浦郡・東彼杵郡地区－	1995,3
第120集	長崎県の民俗芸能－長崎県民俗芸能緊急調査報告書－	1995,3
第121集	県内重要遺跡範囲確認調査報告書Ⅲ	1995,3
第122集	長崎県埋蔵文化財調査年報Ⅱ	1995,3
第123集	万才町遺跡　長崎県庁新別館建替えに伴う発掘調査報告書	1995,3
第124集	原の辻遺跡	1995,3
第125集	長崎県埋蔵文化財調査年報Ⅲ	1996,3
第126集	伊木力遺跡Ⅰ	1996,3
第127集	黒丸遺跡Ⅰ－都市計画道路杭出津・松原線改良工事に伴う発掘調査報告書－	1996,3
第128集	中木場遺跡Ⅱ－水無川４号遊砂地造成工事に伴う工事立会調査－	1996,3
第129集	中木場遺跡Ⅲ－水無川１号ダム建設工事に伴う緊急発掘調査－	1996,3
第130集	県内重要遺跡範囲確認調査報告書Ⅳ	1996,3
第131集	長崎奉行所関係文書調査報告書	1997,3
第132集	黒丸遺跡Ⅱ	1997,3
第133集	県内重要遺跡範囲確認調査報告書Ⅴ	1997,3
第134集	伊木力遺跡Ⅱ	1997,3
第135集	長崎県埋蔵文化財調査年報Ⅳ	1997,3
第136集	稗田原遺跡Ⅰ	1997,3
第137集	広平遺跡	1997,3
第138集	桟原城跡	1997,3
第139集	石田城跡	1997,3
第140集	長崎県の近代化遺産－長崎県近代化遺産総合調査報告書－	1998,3
第141集	大浜遺跡	1998,3
第142集	蒲河遺跡	1998,3
第143集	沖城跡	1998,3
第144集	桜町遺跡	1998,3
第145集	稗田原遺跡Ⅱ	1998,3
第146集	長崎奉行所（立山役所）跡	1998,3
第147集	県内主要遺跡内容確認調査報告書Ⅰ	1998,3
第148集	長崎県埋蔵文化財調査年報５	1998,3
第149集	馬乗石遺跡	1998,3
第150集	長崎県埋蔵文化財調査年報６	1999,3
第151集	県内主要遺跡内容確認調査報告書Ⅱ	1999,3
第152集	稗田原遺跡Ⅲ	1999,3
第153集	長崎県のカクレキリシタン－長崎県カクレキリシタン習俗調査事業報告書－	1999,3
第154集	長崎街道－長崎県歴史の道（長崎街道）調査事業報告書－	2000,3
第155集	長崎県埋蔵文化財調査年報７	2000,3
第156集	県内主要遺跡内容確認調査報告書Ⅲ	2000,3
第157集	稗田原遺跡Ⅳ	2000,3
第158集	長崎県埋蔵文化財調査年報８	2001,3
第159集	県内主要遺跡内容確認調査報告書Ⅳ	2001,3
第160集	平野遺跡	2001,3
第161集	稗田原遺跡Ⅴ	2001,3
第162集	栄町遺跡	2001,3
第163集	石田城跡Ⅱ	2001,3
第164集	長崎県埋蔵文化財調査年報９	2002,3
第165集	県内主要遺跡内容確認調査報告書Ⅴ	2002,3
第166集	森岳城跡	2002,3
第167集	玖島城跡	2002,3
第168集	千里ヶ浜遺跡	2002,3
第169集	歴史の道整備活用推進事業　長崎街道整備活用計画報告書	2002,2
第170集	長崎県の祭り・行事調査報告書	2002,3
第171集	長崎県埋蔵文化財調査年報１０	2003,3
第172集	県内主要遺跡内容確認調査報告書Ⅵ	2003,3
第173集	森岳城跡	2003,3
第174集	供養川遺跡	2003,3

五　平成8年度から平成13年度にかけての事業別発掘調査届出件数の推移

		平成８年	平成９年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年
緊急調査	道路	１４	１２	１２	１５	8	7
	河川	1	1	1	2	1	0
	学校	2	2	4	4	1	1
	住宅・宅地造成	３１	１５	１０	２８	１３	3
	工場	2	0	0	1	3	0
	店舗等	0	0	2	0	5	0
	その他建物	9	9	3	5	１３	2
	土地区画整理	3	2	3	0	0	0
	公園造成	3	2	1	2	1	0
	ゴルフ場	0	0	0	0	0	0
	観光開発	0	0	0	1	1	0
	ガス等	1	1	1	0	2	3
	農業関連	２９	３０	２３	３４	２１	9
	土砂採取	0	0	0	0	0	0
	その他開発	7	２１	１４	１４	8	2
	自然崩壊	0	0	1	0	0	0
	遺跡地図作成等	0	0	0	2	0	0
	保存目的	0	0	0	0	6	１３
	確認試掘	4	0	0	0	0	0
	遺跡整備	2	3	2	1	0	2
学術研究		0	0	2	6	7	8
合計		１０８	９８	７９	１１５	９０	５０

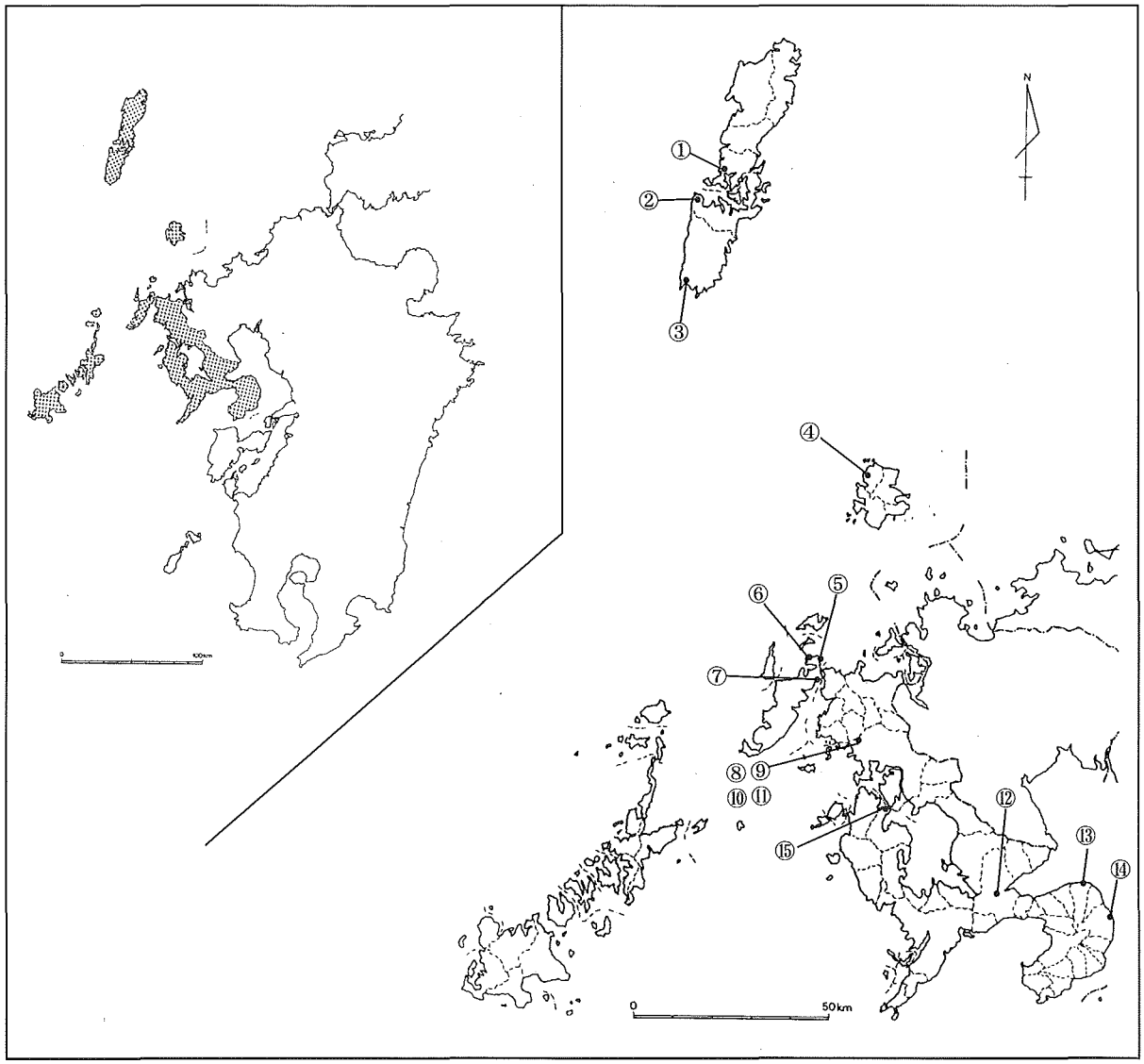
平成8年度から平成13年度にかけての県市町村別職員数の推移

	平成８年度		平成９年度		平成１０年度		平成１１年度		平成１２年度	
区分	県	市町村	県	市町村	県	市町村	県	市町村	県	市町村
職員数	16(3)	34(5)	17(3)	34(10)	17(3)	33(11)	16(5)	36(6)	17(7)	42(4)

	平成１３年度	
区分	県	市町村
職員数	22(6)	43(5)

（　）は嘱託等を示す外数である

Ⅱ　各遺跡の調査概要



平成13年度長崎県内発掘調査箇所

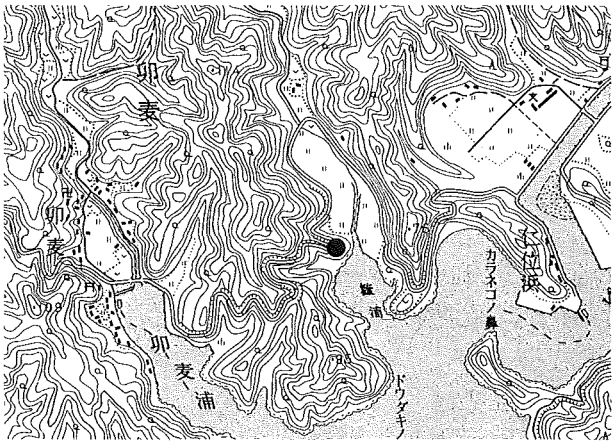
①糠ノ浜遺跡	(豊玉町)	⑥西千本松遺跡	(平戸市)	⑪川久保遺跡	(佐々町)
②水崎遺跡	(美津島町)	⑦千里ヶ浜遺跡	(平戸市)	⑫諫早農業高校遺跡	(諫早市)
③オテカタ遺跡	(厳原町)	⑧門前遺跡	(佐世保市)	⑬多比良馬場遺跡	(国見町)
④松崎遺跡	(勝本町)	⑨門前遺跡	(佐世保市)	⑭森岳城跡	(島原市)
⑤供養川遺跡	(平戸市)	⑩小野Ｆ遺跡	(佐世保市)	⑮小迎遺跡	(西彼町)

①糠ノ浜（ぬかのはま）遺跡

所 在 地	下県郡豊玉町卯麦糠ノ浜	**調査主体**	長崎県教育委員会
調査原因	県道改良工事	**調査面積**	200㎡
調査機関	平成13年8月27日～8月31日（5日間）	**調査区分**	範囲確認調査
報 告 書	刊行予定なし	**処　　置**	現状保存

立　地

糠ノ浜遺跡は豊玉町のほぼ中央部に位置し，仁位浅茅湾に北西方向から突き出す岬の先端部に立地する石棺墓群である。岬の先端に位置するという立地の状況は，典型的な対馬の弥生時代の墓地の姿といえよう。標高は約16mである。



糠ノ浜遺跡位置図［仁位］（S=1/25,000）

調　査

糠ノ浜遺跡はかつて銅矛が出土し，出土した広形銅矛などは現在，豊玉町が保管保有している。

当地は分布調査により，石棺墓の存在がすでに確認されていた。平成11年に糠ノ浜遺跡周辺において，県道改良工事にともなう橋梁工事がおこなわれることが明らかになり，再度分布調査をおこなった。その際，工事着工前に事前協議をおこなうということで，現地調査を終えた。その後，対馬支庁が周辺の樹木を伐採し，既存の石棺墓を豊玉町教育委員会が再確認し，今回の調査となった。

調査は石棺墓が工事対象地に含まれるかどうかという点と，石棺の基数確認を目的に実施した。

調査の結果，残りの良い第1号石棺と，天井石がはずされ内部も半壊した第2号石棺，および石棺材の集積を確認した。集石付近は私設の簡易水道の管が埋設されており，水道管敷設の際に破壊された石棺の石材かとも思われた。第1号石棺は天井石が一部失われているものの，遺存状態は良好である。標高約12mにあり，岬のもっとも先端部に立地する。傾斜地でありながら石棺のための平場をつくり，等高線に平行に石棺墓を造営している。未発掘であるため，内部は不明であるが，長軸約200cm，短軸80cmを測る。第2号石棺は天井石と思われる石材が並べられ，付近に盗掘坑らしきものも存在したため，盗掘をうけたものと推定された石棺である。標高は約17mを測る。側壁は土圧によって，傾斜の低い方へ倒れかかっている。主体部の半分は既に破壊されていた。現存する石棺の規模は長軸100cm＋α，短軸50cm＋αである。付近より陶質土器片が出土している。

まとめ

今回の調査では，石棺墓1基（第1号石棺）と，盗掘をうけ半壊状態の石棺（第2号石棺）および棺材と思われる集石を確認した。岬の標高の高い部分には上記の石棺以外にも石棺墓が存在する可能性が残されている。　［調査担当：古門・荒井・宮脇（豊玉町教育委員会）］（文責：古門）

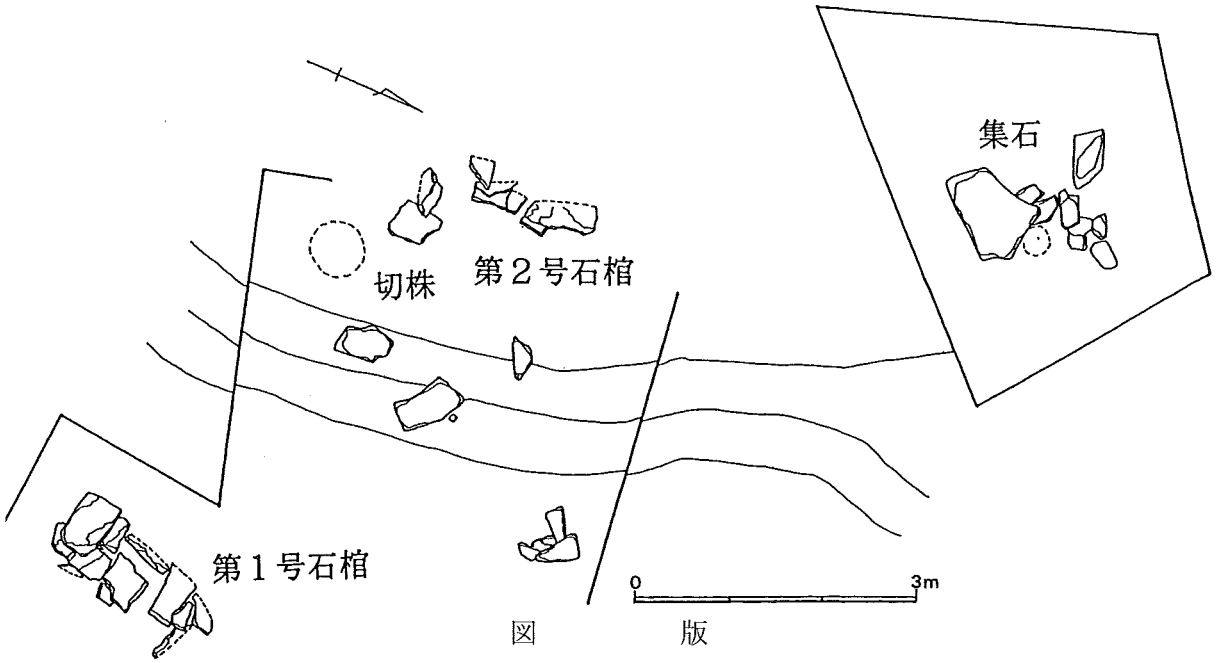
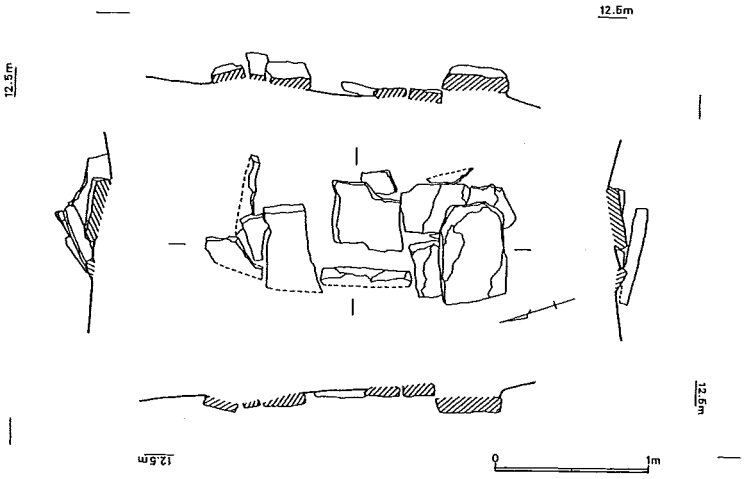


図　　版



糠ノ浜第１号石棺（S=1/50）

糠ノ浜第１号石棺

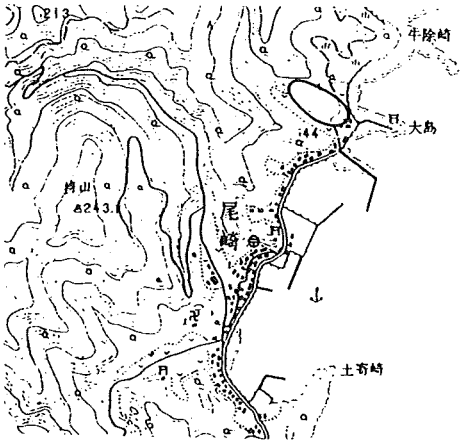
②水崎（仮宿）遺跡

所 在 地	上県郡美津島町大字尾崎字仮宿	**調査主体**	長崎県教育委員会
調査原因	県内主要遺跡内容確認調査	**調査面積**	69㎡
調査期間	平成13年12月10日～12月19日	**調査区分**	範囲確認調査
報 告 書	平成14年度刊行予定	**処　　置**	調査後，保存

概　要

本遺跡は，申叔舟によって編纂された『海東諸国紀』に記された「敏沙只浦」に比定され，倭寇の頭目であった早田氏の拠点と考えられている。応永二十六年（1419）には，倭寇禁圧を目的とした朝鮮側による攻撃（応永の外寇）の上陸地ともなった。

美津島町によって過去２回の調査が行われており，朝鮮産に加えてタイ・ベトナムなど東南アジア産の陶磁器がまとまって出土し，倭寇の広域な活動が明らかになった。



水崎（仮宿）遺跡位置図［阿連］（S＝1/25,000）

調　査

今回の調査は，遺跡の範囲を確認するために実施したものである。とくに北側の範囲の特定に主眼を置いたものである。調査は，2m×2mを基本とするトレンチ（以下ＴＰ）を13カ所設定して行った。その結果，過去の調査地から北側に60m前後までは遺物包含層が存在するが，それより北側には存在しないことが明らかになった。出土遺物は，朝鮮半島産の粉青沙器や雑釉陶器，中国産の青磁，さらにベトナム産の青花がみられた。

まとめ

今回の調査によって水崎遺跡の範囲がかなり限定されたものであることが明らかになった。当初，遺構がより明確に広がりをもって存在すると予想していたが，結果は逆で遺跡が極めて狭い範囲に限定され，遺構としても簡素なものであったことが判明した。これは，北側の山からの土砂の供給が多く，建物の設置に向かないことも原因のひとつと考えられる。あるいは主体となる遺跡が付近にまだ存在することも考えられるであろう。

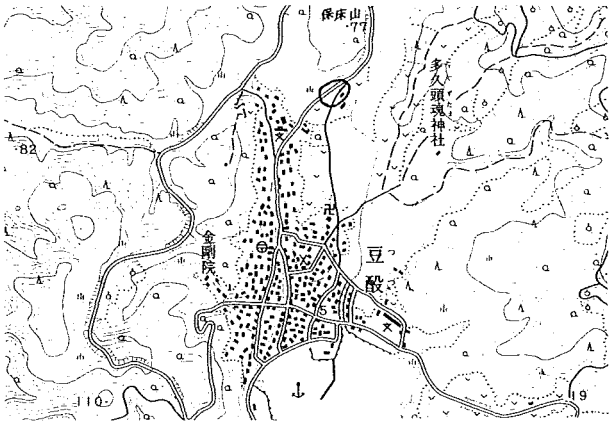
［調査担当：福田・内藤］（文責：川口）

③オテカタ遺跡

所 在 地	下県郡厳原町大字豆酘字東保床	**調査主体**	長崎県教育委員会
調査原因	県内主要遺跡内容確認調査	**調査面積**	122㎡
調査期間	平成13年９月10日～９月28日（18日間）	**調査区分**	学術調査
報 告 書	平成14年度刊行予定	**処　　置**	調査後，埋め戻し

立　地

遺跡が所在する豆酘は対馬の最南端に位置する。ここは木槲山に源を発する神田川が南流してできた平野が広がり，耕地の乏しい対馬にあっては数少ない穀倉地帯となっている。オテカタ遺跡は神田川の右岸，保床山丘陵の南東斜面に立地し，標高は36m前後である。



オテカタ遺跡位置図［豆酘］（S=1/25,000）

調　査

昭和51年に九州大学が発掘調査を行い，朝鮮半島系の無文土器と弥生土器が共伴して出土したことで周知されることとなった。過去にも，幼稚園建設の際に磨製石剣の出土が伝えられ，弥生～古墳時代の集落跡が存在する有力候補地に挙げられている。ただし，これまで遺構等は見つかっておらず，今回の調査も遺跡の内容と範囲を明確にすることを目的としたものであった。調査はオテカタ遺跡内とその周辺に9箇所，旧豆酘小学校グラウンドに2箇所の計11箇所に試掘坑（以下，ＴＰと記す）を設けて実施した。土層は基本的に4つに大別できる。第１層は表土で，第2層は硬質の黄褐色土層，第3層は黒褐色粘質土層，第4層は黄褐色粘質土層である。このうち第3層が遺物包含層で，弥生時代～中世までの遺物が出土した。遺構は第4層上面で確認でき，今回の調査では3箇所で検出された。ＴＰ7とＴＰ8はそれぞれ径40～50cmのピットが1基見つかった。ＴＰ9は住居跡と思われる一辺を検出し，床面直上からは弥生中期の甕が出土した。これと切り合う時期不明の土坑もあり，複数の時代にわたって遺跡が営まれていたことが判明した。また，旧豆酘小学校グラウンドの試掘坑でも弥生後期の大型壺型土器が出土した。

まとめ

オテカタ遺跡の中心は保床山古墳のある丘陵裾部～神田川西岸にかけての一帯と思われ，現在水田として利用されている地下には，遺跡が良好に残存している可能性が高い。豆酘の集落も遺跡と重なり合って営まれていることは確実で，さらなる詳細調査の実施が望まれる。

［調査担当：本田・竹中］（文責：本田）

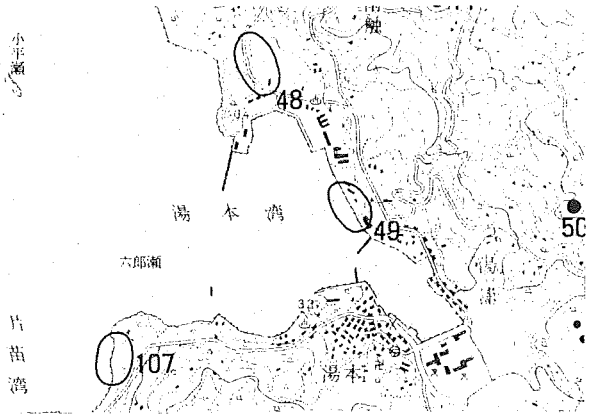
ＴＰ９　検出遺構

④松崎（まつざき）遺跡

所 在 地	壱岐郡勝本町本宮南触字松崎地先海岸	**調査主体**	勝本町教育委員会
調査原因	漁港改修事業	**調査面積**	604㎡
調査期間	平成14年3月4日～3月29日（20日間）	**調査区分**	範囲確認調査
報 告 書	平成14年度刊行予定	**処　　置**	継続調査

立　地

松崎遺跡は，壱岐島東海岸の湯ノ本湾右岸に位置する。標高0.1～1mの低地部に立地し，満潮時には海面下に没する潮間帯遺跡である。周辺は溶岩台地が海岸に向かって緩やかに落ち込む地形となる。壱岐の基盤層は，第四紀の玄武岩が主体となるが，遺跡の位置する湯ノ本周辺および勝本町北部海岸には，第三紀に堆積した勝本層群と呼ばれる砂岩・泥岩の露頭が確認されている。



松崎遺跡位置図［湯本］（S=1/25,000）

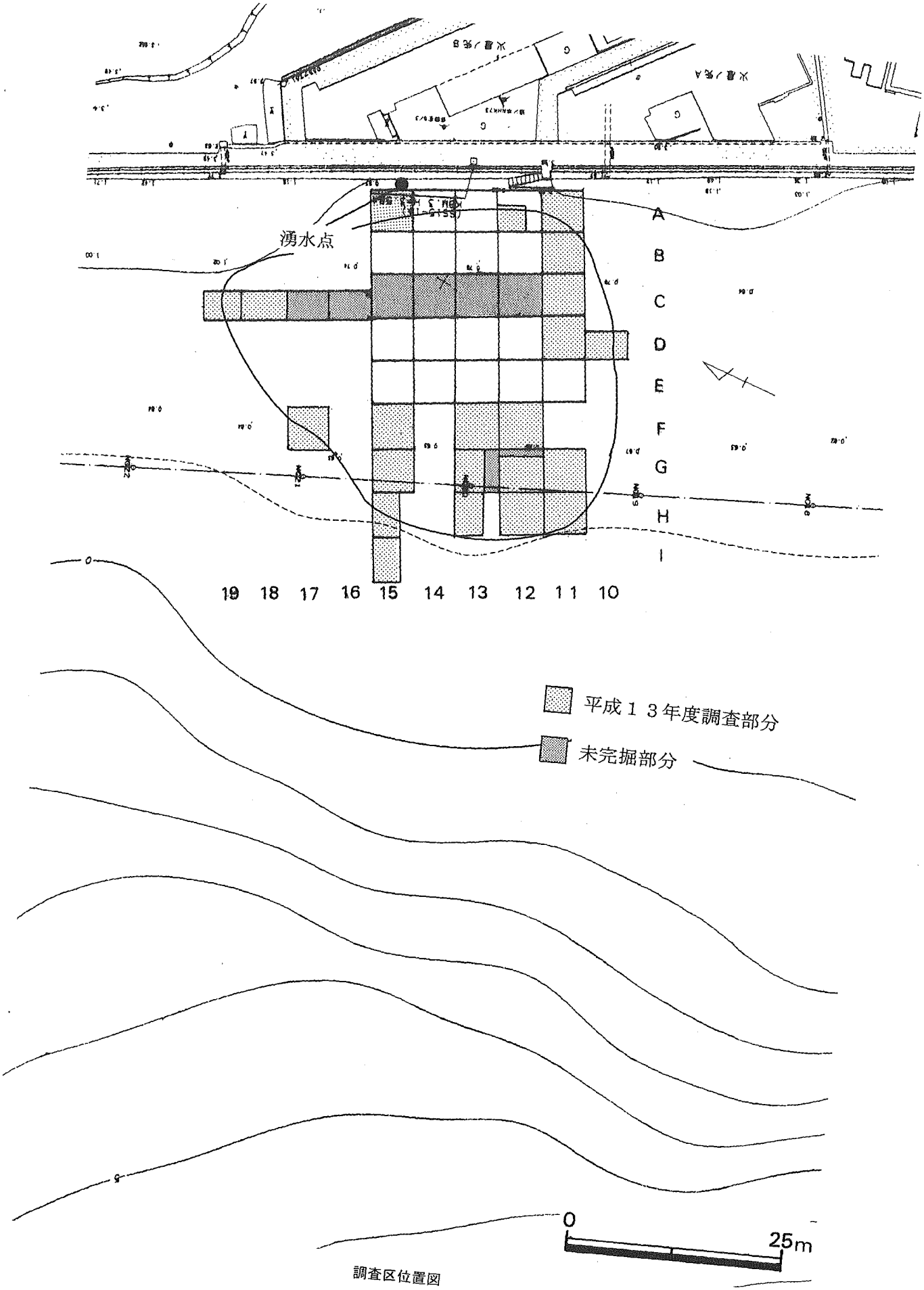
調　査

1979年に行われた試掘調査に基づき，湧水点付近を中心に25×25mの調査区を設定して全面調査を開始した。しかし，調査区外に遺跡の範囲が拡大することが想定されたため，順次調査区を拡大し，結果として遺跡の範囲は約1,600㎡に及ぶことが明らかとなった。明瞭な遺構は検出されていないが，縄文時代前期後半および中期末～後期前葉の貝層を2カ所で検出した。貝類の構成はスガイが最も多く，クマノコ・クボガイ・サザエなど岩礁系の貝類を中心に構成され，県内の他の貝塚と共通する組成である。遺物では，縄文時代前期後半の曽畑式土器および中期末～後期初頭の阿高式土器を中心にパンケース約15箱分の土器が出土している。1979年の試掘調査では，韓半島の櫛目文土器が出土しているが，今回の調査では明確な韓半島系遺物は確認できなかった。一方で，縄文時代早期中葉の楕円押型文土器1点が出土しており，この時期における海水準の変動を考えるうえで興味深い資料である。その他，石製装身具やベンケイガイ製貝輪をはじめ，石斧・大型石錘・凹石などが出土している。

まとめ

壱岐島内において縄文時代の遺跡が調査された事例は少なく，この時期の状況については不明な点が多い。その中で，松崎遺跡の調査の意義は大きい。特に貝層の検出は，当時の自然環境や生業について多くの情報を提供するものと期待される。本遺跡は，調査終了後埋め立てられる予定であったが，遺跡の重要性を鑑み，関係者の協力を得て，平成14年度も継続調査されることが決まった。今回の調査では範囲確認に終始したが，今後は貝層の範囲を含めた遺跡の構造の把握が課題である。

［調査担当：山口，竹中，中尾］（文責：中尾）


湧水点
A
B
C
D
E
F
G
H
I
19 18 17 16 15 14 13 12 11 10
平成１３年度調査部分
未完掘部分
0
25m

調査区位置図

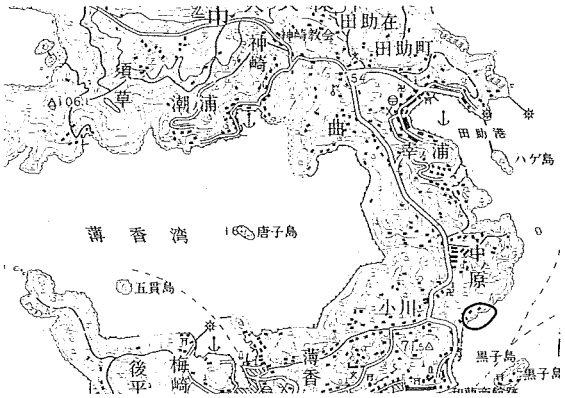
⑤供養川遺跡

所 在 地	平戸市大久保町供養川	**調査主体**	長崎県教育委員会
調査原因	平戸港（小川地区）海岸保全工事	**調査面積**	24㎡
調査期間	平成13年6月4日～6月22日	**調査区分**	範囲確認調査
報 告 書	平成14年度刊行予定	**処　　置**	調査後，工事

立　地

供養川遺跡は，平戸阿蘭陀商館跡の北方，海に面した急傾斜地に位置し，部分的に平坦地もある。17世紀初頭の平戸オランダ商館時代には古館と呼ばれ，文献等によればこの平坦地のところにオランダ船の修理のための製材所や管理人小屋があったとの記述がある。平坦地の陸地部分を古館遺跡とし，今回の調査地の海岸部は供養川遺跡となる。

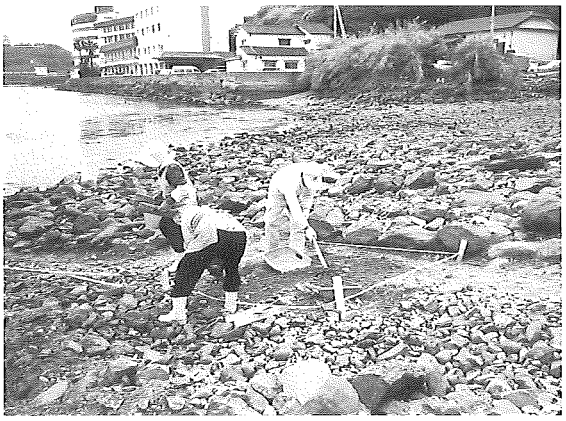
今回の調査は，平戸港海岸保全工事に先だって遺跡範囲とその包蔵状況を確認するために実施した。



供養川遺跡位置図［平戸］（S=1/50,000）

調　査

調査地は満潮の時は海水に没するところで，作業工程は潮位表を参考にして実施した。工事計画区域内に2m×2mの試掘坑を計6箇所設定して行い，東側からＴＰ.1～6とした。調査地の北側は岩盤が露出しており，ＴＰ.1，2は比較的浅い段階で岩盤を確認した。調査地は礫浜で，礫と砂とが混じった層である。ＴＰ6の3層；灰青色細砂層で，縄文時代前期の包含層が認められた。遺構としては，調査地の北側ＴＰ.1のところに時期不明の石垣があったが，時期の判別までは至っていない。ＴＰ.5では，石列を確認した。遺物としては，ＴＰ.6の第3層である灰青色砂層から，縄文時代前期の曽畑式の土器に共伴して安山岩製の尖頭状石器，蛇文岩製の磨製石斧，礫器等が出土した。他に表面採集品として16世紀後半の明代染付があり，近世以降の陶磁器等もある。


調査風景

まとめ

調査の結果，ＴＰ.6第3層の灰青色細砂層から縄文時代前期の曽畑式土器が出土し，尖頭状石器，蛇紋岩製磨製石斧，礫器等も供伴する事から，良好な包含層が残存していることが判明した。ＴＰ.1北側の石垣とＴＰ.5の石列は，その所属時期等がはっきりしない。この場所は平戸オランダ商館時代の製材所，管理人小屋があった場所であり，古舘があった時代に所属する可能性があり，調査が必要であろう。

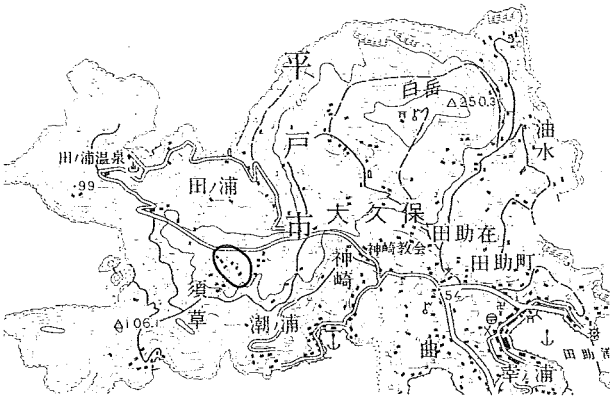
（村　川）

⑥西千本松遺跡（にしせんぼんまつ）

所 在 地	平戸市大久保町	調査主体	長崎県教育委員会
調査原因	一般県道田浦平戸線道路改良工事	調査面積	16㎡
調査期間	平成13年5月28日～5月30日（3日間）	調査区分	範囲確認調査
報 告 書	刊行予定なし	処　　置	調査後，工事

立　地

西千本松遺跡は，平戸島の北部に広がる玄武岩溶岩台地の南西部に位置する。遺跡の周辺はローム質土層が比較的良好に保存されており，平戸島の中で先史時代遺跡の集中する地域である。本遺跡も旧石器から縄文時代の遺跡として周知されており，ナイフ型石器や石鏃などが表面採集されている。



西千本松遺跡位置図［平戸］（S=1/50,000）

調　査

調査は，県道田浦平戸線改良工事に伴って，2m×2mの試掘坑を4箇所設定して行った。表土を剥ぎ，赤褐色の層を調査したが，遺物等はいずれの試掘坑からも検出されなかった。赤褐色の層の直下に玄武岩の地山層が検出されたことから，今回の調査区についてはすでに包含層が削平されたものと思われる。

全ての試掘坑から遺構・遺物は確認されなかったが，削平・攪乱等を受けていない調査区周辺部の畑地や切り通しの路頭からは，黒曜石片等の遺物が検出され，包含層が残存している可能性があることから，今後の開発行為については十分注意する必要がある。

まとめ

北松地区一帯は，旧石器時代の遺跡数は多いものの，良好な包含層を確認できる遺跡は数少ない。本遺跡も包含層が後世の削平により消失していたが，周辺地域は地形的に見て良好な部分もあり，今後注意をはらう必要がある。

［調査担当：福田・荒井］（文責：福田）

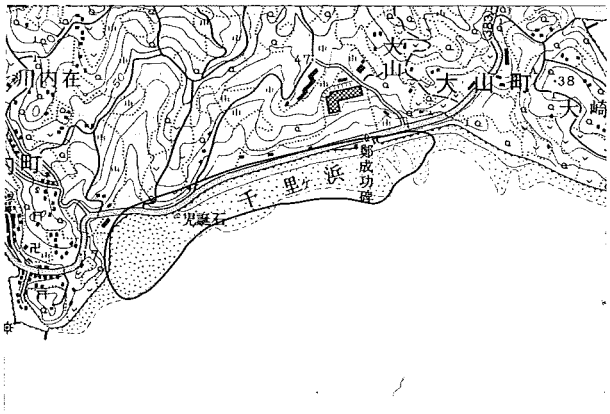
調査風景

⑦千里ヶ浜遺跡（せんりがはま）

所 在 地	平戸市字川内千里ヶ浜	**調査主体**	長崎県教育委員会
調査原因	港湾環境整備	**調査面積**	4,000㎡
調査期間	平成13年7月6日～11月29日	**調査区分**	本調査
報 告 書	平成13年度刊行	**処　　置**	調査後，工事

立　地

平戸市川内に所在する千里ヶ浜遺跡は，川内地区に広がる傾斜地の東側の砂浜に位置している。現状はその名の通り砂浜であり，夏場ともなると海水浴客で大いに賑わう。この砂の供給源は周辺に見られる砂岩であり，風成作用により堆積したと見られる。



千里ヶ浜遺跡位置図［肥前川内］（S=1/25,000）

調　査

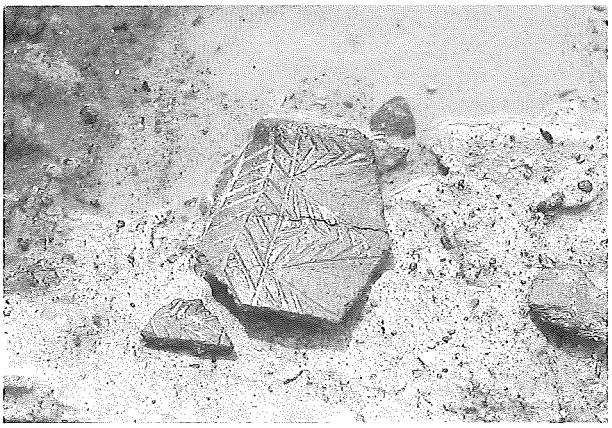
今回，千里ヶ浜周辺の港湾環境整備が計画された。その中心部である当遺跡はかつてより縄文時代の包蔵地であることが知られており，平成8年の試掘調査の結果，本調査が必要となった。協議の結果，4,000㎡本調査を実施した。

まとめ

今回の調査では，遺構は確認されなかったものの縄文～古墳時代の豊富な資料を得た。特に，縄文時代の遺物を主体としており，掻器・石匙・大型礫石錘などの石器類に加え，前期前葉の曽畑式，後期前葉の坂の下系を中心とした数多くの縄文土器が出土した。特に中津式土器は諫早市有喜貝塚に次いで県内2例目の出土である。また，韓国の櫛目文土器を模して制作されたとみられる「擬櫛目文土器」の出土は，当時の平戸島と朝鮮半島との交流と捉える上で注目される資料である。以上の調査は平戸島における縄文時代の様相を知る上で大きな成果を上げたといえる。

［調査：村川・福田・東・内藤・井立・上原］

（文責：井立）



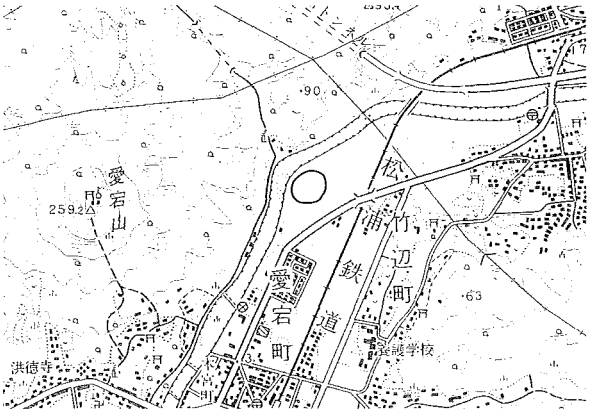
擬櫛目文土器出土状況

⑧門前遺跡

所 在 地	佐世保市愛宕町・中里町	調査主体	長崎県教育委員会
調査原因	一般国道497号佐々佐世保道路工事	調査面積	108㎡
調査期間	平成14年1月24～2月15日	調査区分	範囲確認調査
報 告 書	平成17・18年度刊行予定	処　　置	本調査

立　地

遺跡は，相ノ浦川左岸に広がる河岸段丘上の沖積地に立地している。現在の相ノ浦川河口は，干拓が進み広大な干拓地となっているものの，中世には現在の陸地部に船郷等の地名が残っており海が湾入していたことも推測される。この相ノ浦川流域には縄文時代前期の下本山岩陰，弥生時代前期から中期の四反田遺跡等があり，中世では松浦党の惣領である松浦遶がつくった竹辺城がある。相ノ浦河口部のこの場所は，縄文時代，弥生時代，中世と重要な場所だったと考えられる。



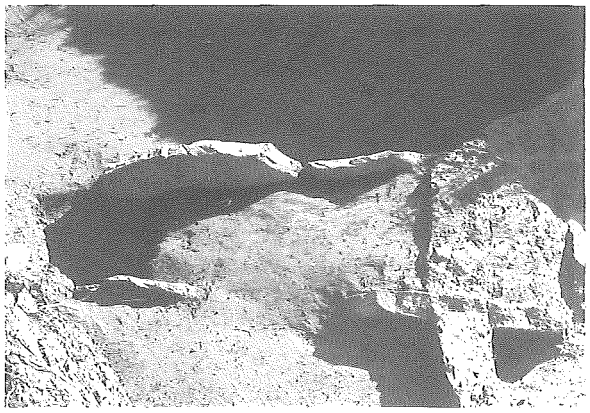
門前遺跡位置図［佐世保北部］(S=1/25,000)

調　査

調査は，24箇所の試掘坑を設定し範囲確認を行った。試掘坑は基本的に2×2mで設定し状況に応じて2×4m，3×4mでの掘り下げを行った。

試掘調査の結果，石棺が検出され，縄文時代前期の曽畑式土器や，同じく縄文時代後期の坂の下式土器，同晩期土器の出土があった。また，弥生時代後期の土器がある程度まとまって出土し，ほかに土師器や，中世（鎌倉時代）の中国製輸入陶磁器の出土もある。

また，客土下の比較的浅い層に近世の陶磁器を含む層が互層をなしており，この時期に土地開発があったことも考えられる。


ＴＰ４石棺検出状況

まとめ

調査の結果，縄文時代晩期の支石墓の可能性がある箱式石棺を検出し，出土遺物としては，縄文時代前期の曽畑式土器と黒曜石製石核，同じく縄文時代後期の坂の下式土器，縄文時代晩期土器，弥生時代後期土器，恐らく古代のものと思われる土師器，11～12世紀の中国製輸入陶磁器である玉縁口縁の白磁，近世陶磁器，寛永通宝等の古銭等が出土した。調査の結果，縄文時代前期から弥生時代，古代・中世，近世と古い時代からある程度継続した生活の痕跡がとらえられたことになる。時に，縄文時代晩期の箱式石棺墓が確認されたことは，定住生活が営まれていたことが考えられ，住居址等が今後発見されることが考えられる。

（村　川）

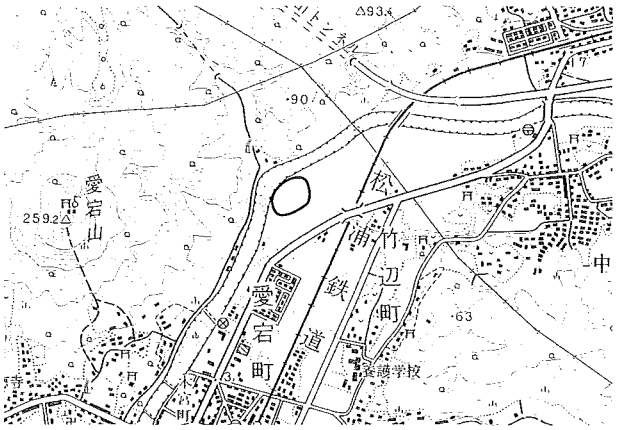
⑨門前遺跡

所 在 地	佐世保市愛宕町・中里町	**調査主体**	長崎県教育委員会
調査原因	一般国道497号佐々佐世保道路工事	**調査面積**	600㎡
調査期間	平成14年2月18～3月20日	**調査区分**	本調査
報 告 書	平成17・18年度刊行予定	**処　　置**	継続調査

立　地

遺跡は，相ノ浦川左岸に広がる河岸段丘上の沖積地に立地している。現在の相ノ浦川河口は，干拓が進み広大な干拓地となっているものの，中世には現在の陸地部に船郷等の地名が残っており海が湾入していたことも推測される。この相ノ浦川流域には縄文時代前期の下本山岩陰，弥生時代前期から中期の四反田遺跡等があり，中世では松浦党の惣領である松浦遶がつくった竹辺城がある。

相ノ浦河口部のこの場所は，縄文時代，弥生時代，中世と重要な場所だったと考えられる。



門前遺跡位置図［佐世保北部］(S=1/25,000)

調　査

調査の結果，平成5年度の圃場整備工事以前の水田畦畔跡の下層からより古い石垣列を検出した。基本土層は，1層が耕作土，2層が圃場整備の時の客土層，3層が黄褐色土層，4層が黄橙色砂層，5層が暗褐色土層となっている。6層は調査地全面が河川堆積物である礫層となっている。出土遺物は，3層から近代・近世の遺物を出土する。4層は無遺物層で，5層からは近世の遺物に混じって11･12世紀，鎌倉時代の中国製輸入陶磁器（白磁・青磁）や古銭，近世のものと思われる鉄釘等が出土している。

遺構検出状況

まとめ

調査の結果，近・現代の水田の畦畔と考えられる石垣列を確認した。昭和23年在日米軍撮影の航空写真に，この石垣列が写っており，平成5年度の圃場整備以前の水田の畦畔跡と考えられる。また，調査の結果，この石垣列の下層の5層から石垣列を検出しており，周辺から近世陶磁器の出土が多いことや，石垣の石積みの仕方が奥行きより横幅が広いことから近世前半期まで遡る可能性がある。また，近世の遺物に混じって鎌倉時代（11～13世紀）の中国製輸入陶磁器である白磁や青磁が出土しているものの，この中世まで遡るような遺構は認められなかった。周辺には中世の山城が所在することから，周辺には中世の遺構を確認できる場所があることも考えられる。

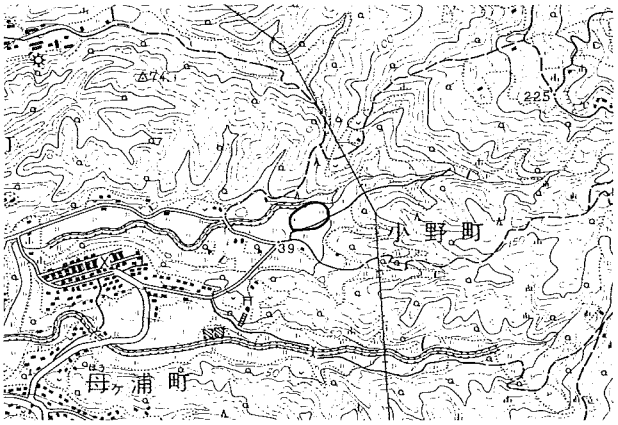
（村　川）

⑩小野（おの）Ｆ遺跡

所 在 地	佐世保市小野町	**調査主体**	長崎県教育委員会
調査原因	一般国道497号佐々佐世保道路工事	**調査面積**	68㎡
調査期間	平成13年11月21日～11月30日（8日間）	**調査区分**	範囲確認調査
報 告 書	平成16年度刊行予定	**処　　置**	調査後，工事

立　地

佐世保市小野町に所在する小野Ｆ遺跡は，舌状に西方へのびた小丘陵の先端部に位置し，同じく西方へのびる南北二つの丘陵にはさまれる形で小盆地状の立地を見せる。現状は緩やかな勾配の斜面を利用して主に水田が占めている。遺跡の北側を丘陵に沿って西へ走る其の原川は，下流で小野川に合流し，流れを南西に変えて相浦川河口付近に到達する。



小野Ｆ遺跡位置図［佐世保北部］（S=1/25,000）

調　査

一般国道497号佐々佐世保道路の建設が計画され，路線が遺跡上を通過することとなり，調査の実施が必要となった。協議の結果，まず買収済みの用地について遺跡の範囲確認調査を行うこととなった。したがって，2m×2mの試掘坑を17ヶ所設定し，調査を行った。

まとめ

今回の調査では，17ヶ所の試掘坑を設定したが，全体的に後世の攪乱が激しく，明確な遺構や遺物包含層を検出するには至らなかった。水田の開墾時に削平された可能性が高い。しかしながら，TP.12においては表土及び埋め土の下の層である暗茶褐色粘質土層中より石器の出土が確認された。出土石器の中には接合する資料もあり，ブロックの一部である可能性も考えられる。この層が遺物包含層である可能性は高く，遺跡の全容を把握するには，TP.12の耕作面及び今回未買収のため確認のできなかった一段上の耕作面をさらに詳細に調査する必要があると判断した。調査の必要性がある部分の面積は，約700㎡である。

遺跡遠景

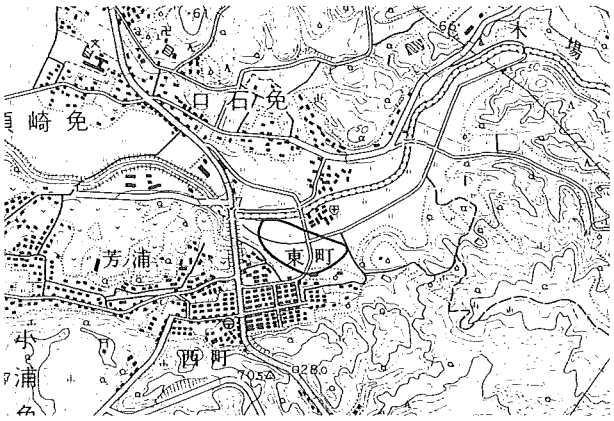
［調査担当：福田・東・本多］（文責：本多）

⑪川久保（かわくぼ）遺跡

所 在 地	北松浦郡佐々町川久保	**調査主体**	長崎県教育委員会
調査原因	一般国道497号佐々佐世保道路工事	**調査面積**	48㎡
調査期間	平成13年10月10日～10月19日（8日間）	**調査区分**	範囲確認調査
報 告 書	刊行予定なし	**処　　置**	調査後，工事

立　地

川久保遺跡は，韮山の麓を源流として佐々川河口付近に流れ込む木場川の右岸に位置している。現状は水田として利用されている。



川久保遺跡位置図［佐世保北部］（S=1/25,000）

調　査

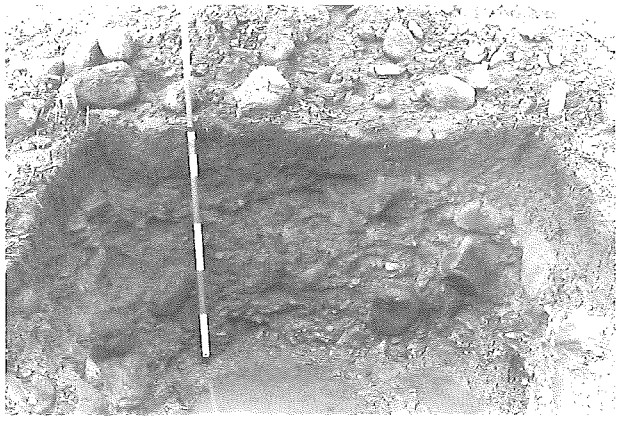
一般国道497号佐々佐世保道路の建設が計画されたので，協議の結果，まず買収済みの用地について遺跡の範囲確認調査を行うこととなり，２ｍ×２ｍの試掘坑を12ヶ所設定して調査にあたった。

調査では，12ヶ所の試掘坑を設定したが，明確な遺構や遺物包含層を検出するには至らなかった。ほとんどの試掘坑において，表土下に礫を多く含む黄褐色粘質土層が見られ，昭和50年代に行われた基盤整備によって嵩上げがなされたことがうかがえる。またさらに，その下層には茶褐色砂礫層が確認され，この層からは地下水の湧き出しが見られた。

まとめ

遺跡南の丘陵が急角度で立ち上がっていることを考えると，木場川の旧流路はこの丘陵に沿って現在より南のルートをとり，この旧木場川の氾濫・堆積によって遺跡周辺の地形が形成されたと考えられる。今回石器片や陶磁器片の出土がわずかながら確認されたが，これらも他の場所から運ばれた埋め土に混入していたものか，もしくは木場川によって上流から運ばれ堆積したものと考えられる。よって，遺跡の本体は別の地点が想定され，道路建設の着工は可能であると判断した。

［調査担当：本田・東・本多］（文責：本多）

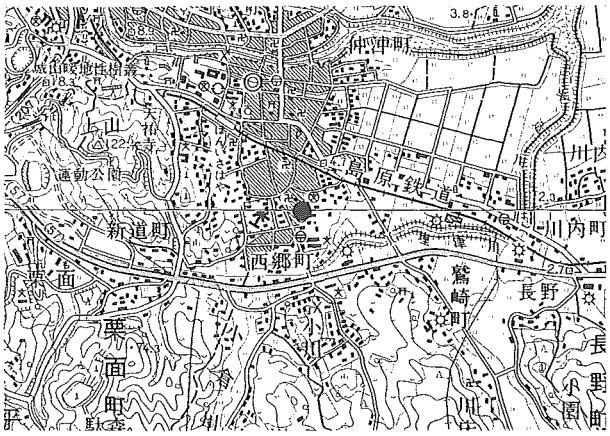

ＴＰ５西壁土層

⑫諫早農業高校遺跡（いさはやのうぎょうこうこう）

所 在 地	諫早市船越町	**調査主体**	長崎県教育委員会
調査原因	草花温室改築実習地整備	**調査面積**	18㎡
調査期間	平成14年2月4日～2月8日（5日間）	**調査区分**	範囲確認調査
報 告 書	刊行予定なし	**処　　置**	調査後，工事

立　地

遺跡は埋津川中流域の左岸の平野に立地する。現在は学校の校舎や校庭等に造成されているが，明治39年の学校新設時には弥生時代の甕棺や細形銅剣が出土したといわれている。当該地周辺には古代・中世の水田遺跡である田井原条里遺跡や西郷氏や龍造寺氏が利用した沖城跡がある。



諫早農業高校遺跡位置図［諫早］（S=1/50,000）

調　査

今回，県立諫早農業高等学校草花温室改築実習地整備事業に伴い範囲確認調査を行った。工事予定範囲内に試掘坑3箇所を設定し調査したが，全ての試掘坑で地表下1mまでの現代撹乱を確認した。工事予定区域内は旧建物の建設・解体工事の際に撹乱を受けており，遺物包含層は破壊されていた。しかし，平成12年度に県文化課が実施した隣接地の範囲確認調査では遺物包含層が確認されており，数は少ないものの出土した弥生土器片や中世土器片はそれに伴うものと考えられる。

まとめ

これらのことから，工事着工に支障はないものと判断したが，破壊を免れている遺物包含層が局地的に残存している可能性があるため，今後の開発においても十分注意をはらう必要がある。

［調査担当：荒井・上原］　（文責：上原）

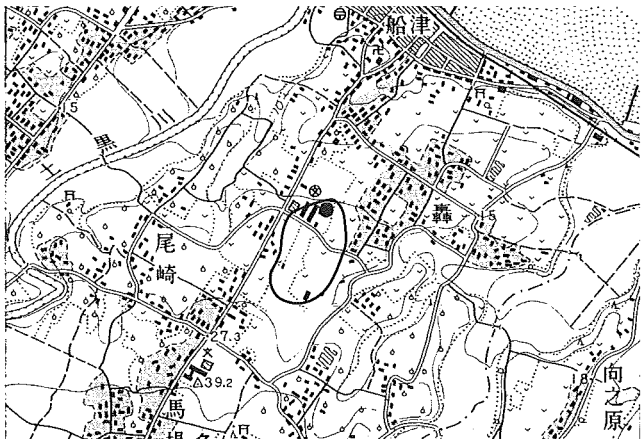
調査風景

⑬多比良馬場遺跡

所 在 地	南高来郡国見町多比良甲1020	**調査主体**	長崎県教育委員会
調査原因	国見高等学校テニスコート改修	**調査面積**	16㎡
調査期間	平成13年10月9日～10月12日（4日間）	**調査区分**	範囲確認調査
報 告 書	刊行予定なし	**処　　置**	調査後，工事

立　地

多比良馬場遺跡は北側に伸びる舌状の丘陵先端よりの平坦面に位置し，標高20mを測る。西側には小谷を挟んで多比良城が位置し，丘陵を北側へ下ると多比良港に至る。東には土黒川が流れ，西には土黒川支流が小谷をつくり，水の利用には適した場である。



多比良馬場遺跡位置図［多比良］（S=1/25,000）

調　査

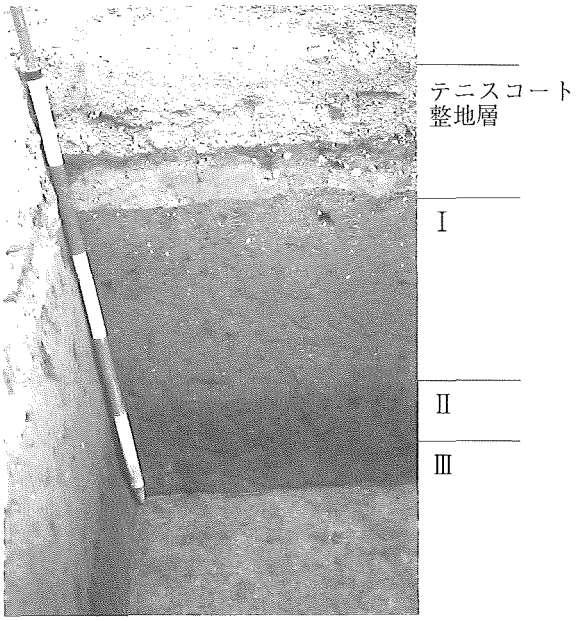
調査地点は昨年度，武道館建設により調査を行った敷地の南で，県立国見高校のテニスコートとして利用されている。工事予定範囲（2,343㎡）に対して，合計3箇所（16㎡）の試掘坑を設け，遺物包含層や遺構の検出を中心に調査を行った。現在のテニスコート整地層下には高等学校造成前の旧耕作土（第Ⅰ層）が厚さ約80cmで堆積しており，その下に遺物包含層（第Ⅱ層）を確認できた。第Ⅲ層上面では前述の遺構（Pitや土坑）が密度の高い状態で検出された。第2トレンチおよび第3トレンチで明瞭なPitを確認し，第2トレンチでは柱間1.9m程の建物跡が想定できた。遺構の覆土は複数の種類に分類でき，複数の時期の遺構が残存している。図示できる出土遺物は検出できなかったが，テニスコート南に広がる畑地の脇道で右頁の図に示す石器を採集している。

まとめ

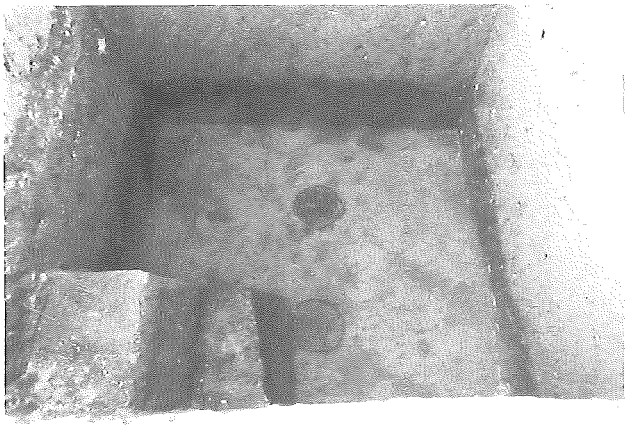
工事対象地内には，出土遺物が少ないため時期は不明であるが明確な建物跡などの遺構が複数存在することが調査により確認できた。遺跡は縄文時代を中心とする遺跡として県遺跡地図には登録されている。今回の調査により複数時期の遺構が存在することが判明し，縄文時代のみでなく，それ以降の時代の遺構も存在する可能性が指摘できる。

［調査担当：荒井・竹中］（文責：竹中）

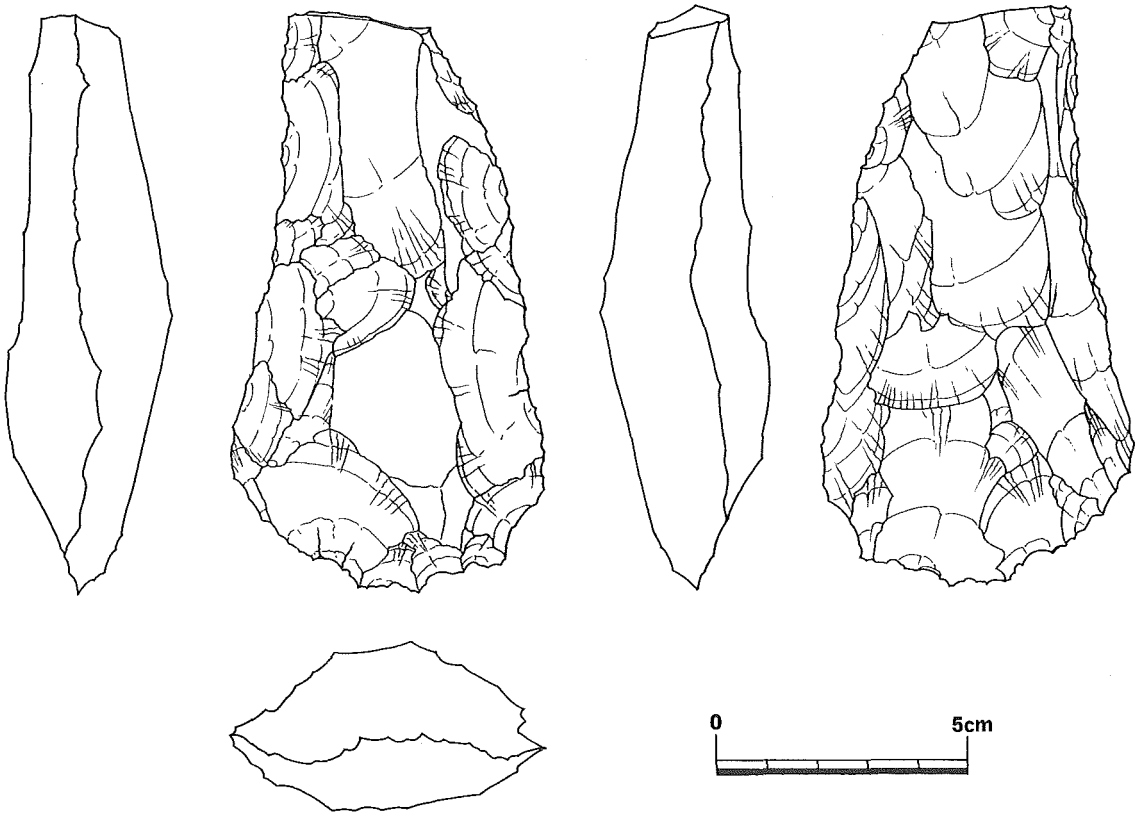
参考文献　有明町教育委員会 2002『大野原遺跡』有明町文化財報告書 第 12 集



基本土層



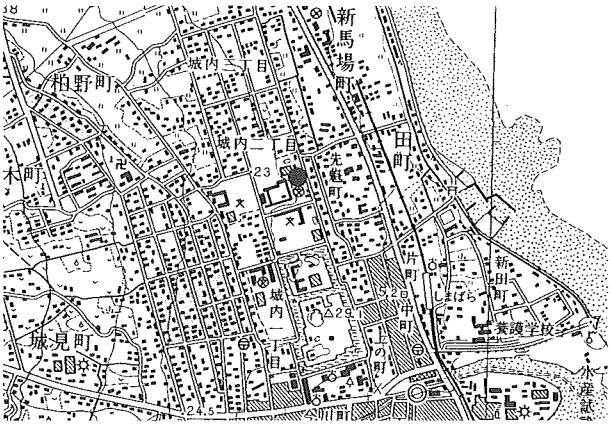
遺構検出状況（ＴＰ．3）



多比良馬場遺跡採集品（S=2/3）

⑭森岳城跡（もりたけじょうあと）

所 在 地	島原市城内二丁目1130番地	**調査主体**	長崎県教育委員会
調査原因	浄化槽移設・渡り廊下建設	**調査面積**	37.5㎡
調査期間	平成14年２月25日～３月14日（20日間）	**調査区分**	範囲内容確認調査
報 告 書	平成14年度刊行予定	**処　　置**	本調査



森岳城跡位置図［島原］（S=1/25,000）

立　地

森岳城は島原城ともいい，雲仙岳の東側裾野にある島原市内の森岳と呼ばれる丘の上に築かれた近世城郭である。大和五条から入封した松倉重政が，元和四年（1618）から7年3箇月をかけて築城したと伝える。

調　査

調査対象地は森岳城の三ノ丸にあたり，歴代藩主の屋敷地として利用されていた場所である。これまで平成11年・平成12年の2箇年，3度にわたって発掘調査が実施されている。

今回の調査は長崎県立島原高等学校浄化槽移設・渡り廊下建設に伴うもので，浄化槽移設地にV1・V2，渡り廊下建設地にN1・N2・W1，仮設校舎建設地にG1～G4の試掘坑を設けて発掘調査を実施した。調査を始めてみると，学校建物に付随した諸施設の地下埋設により，攪乱が地中深くまで及び，かなりの量の埋土で覆われていることが判明した。三ノ丸関連の遺構がかろうじて遺存していたのは，N2・G3・G4・V1・V2だけであった。

層序は基本的に1層が表土層，2層が埋土，3層が黒褐色土となる。これまでの調査事例では，森岳城の遺構は3層に掘り込まれており，今回の調査でも同様のことが首肯された。

N1・N2は絵図によると藩主屋敷が建っていた場所で，建物遺構の存在が最も期待される場所であった。廃城後は幾度か施設が建て替わり，校舎の改築や付帯施設等で工事の手は常に入っていた。攪乱は地下1.5mまで及んでいたが，N2ではその下に30cmほど堆積した第3層と，そこに掘り込まれたピットを確認することができた。ピットは中央に20cm角の方形の石が据えられ，周囲を別の石で囲むようにしていた。石の上面が平坦に整っており，建物の礎石の一部と考えられる。

G1～G4は現在島原高等学校のグラウンドであるが，かつては屋敷地の庭園部分であったと想定される。西側に設けたG1・G2では表土のすぐ下に地山があらわれ，遺構は何ら確認できなかったのに対し，G3・G4は土層の堆積があ

G４石組み溝

り，遺構も遺存していた。東側にかけて徐々に地山までの深さも増すようである。廃城後に大規模な土地の改変が行われたという記録はなく，築城時に西側の削平はすでに行われたのであろう。

G3は東西方向に延びる石列を確認した。石面は南に向く。石列の南側には整地層と考えられる淡灰色砂層が広がっていた。遺構の性格は不明である。

G4では南北に走る石組み溝を検出した。溝幅は約20cmを測る。溝の東側石組は後世の攪乱で削平されており，基底部の石のみが残存していた。

V1・V2は浄化槽移設予定地にあたる。ここは三ノ丸の外部となり，絵図面では堀の内部か三ノ丸外周の道路にあたる。現在，弓道場やバレーコートとして利用されており，建物等の建設はこれまでない。地表下50cmまでは後世に整地した形跡が窺え，遺構はその下の層から検出された。

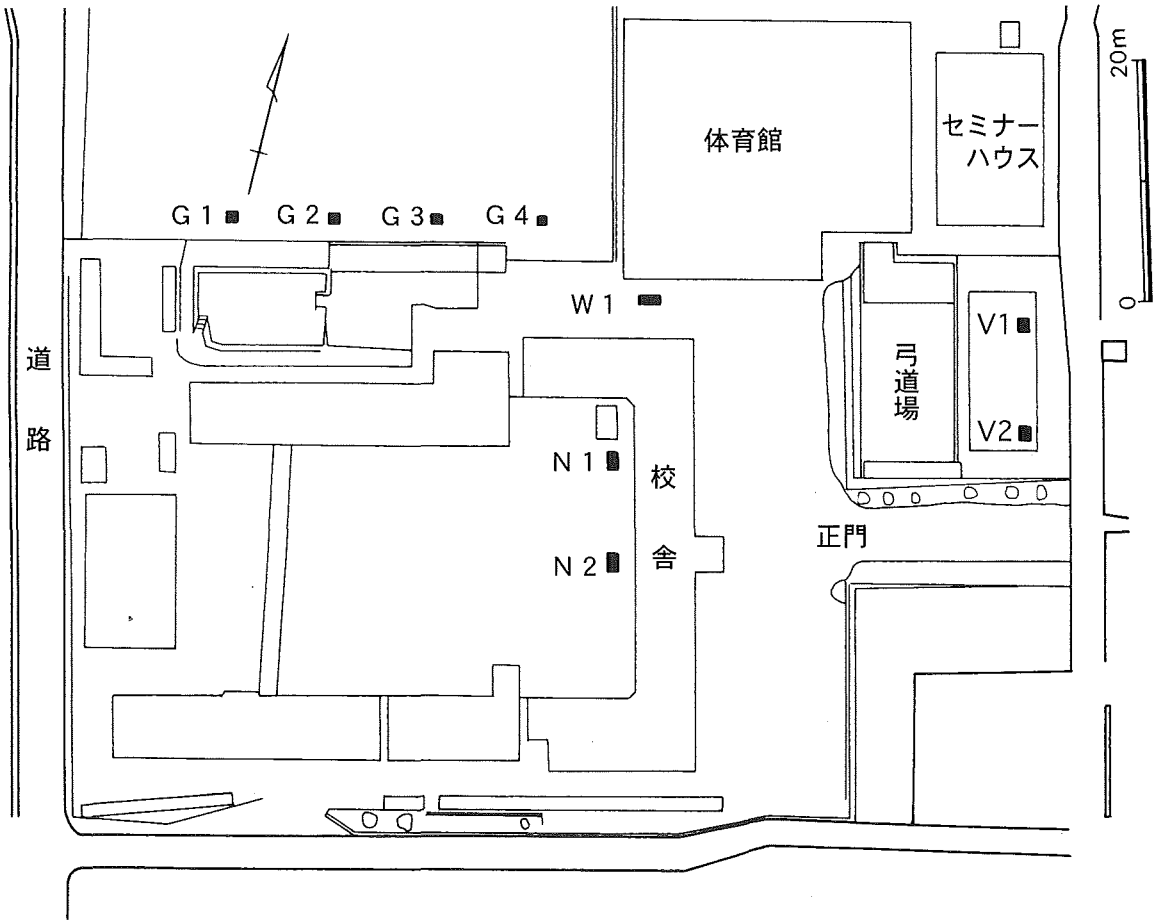
V1は北西側で30～40cm大の石を不規則に組み合わせた遺構がみつかった。石の下部に完形の丸瓦を置くなど，遺構の性格は不明な点が多い。地山は北から南へ緩く傾斜をするようである。

V2は西側壁面付近で，やはり石を不規則に配した遺構がみつかった。くらわんか茶碗や仏飯器，蛸唐草の小瓶，土鍋が遺構に伴って出土している。概ね18世紀後半代頃のものであろう。

出土遺物は瓦類を中心に，近世陶磁器や鉄製品などがある。ほとんどが攪乱を受けた埋土中からで，確実に遺構に伴うのはV2のものしかない。

まとめ

以上のように，N2・G3・G4・V1・V2において検出した遺構は三ノ丸に伴うものであることは明らかで，工事に際しては再度協議を必要とする。　　［調査担当：本田・上原］（文責：本田）



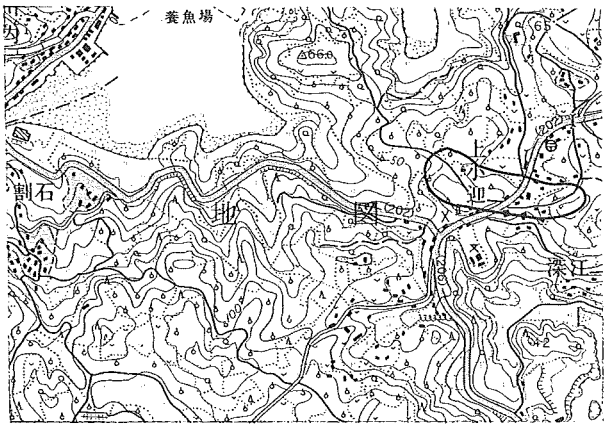
森岳城跡試掘坑配置図

⑮小迎（こむかえ）遺跡

所 在 地	西彼杵郡西彼町小迎郷	**調査主体**	長崎県教育委員会
調査原因	一般国道202号改良工事	**調査面積**	20㎡
調査期間	平成14年3月11日～3月13日（3日間）	**調査区分**	範囲確認調査
報 告 書	刊行予定なし	**処　　置**	調査後，工事

立　地

本遺跡が所在する西彼杵郡西彼町は，西彼杵半島北端部，大村湾北西岸に位置し，西は西海町南は大瀬戸町・琴海町と接している。今回の調査地は丘陵状の地形を呈しており，現況は住宅地・畑地となっている。



小迎遺跡位置図［面高］（S=1/25,000）

調　査

今回，一般国道202号の改良工事が本遺跡と重複するため範囲確認調査を行った。調査は用地買収済みの区域に2m×2mの試掘坑を3箇所，1m×4mの試掘坑を2箇所設定して実施した。その結果，今回調査した全ての試掘坑から遺構・遺物は確認されなかった。層位も表土と岩盤の構成であった。周辺には岩盤の露頭が確認されたが，調査の層位と同様の構成をしていた。表採資料も少なく，今回の調査区域については遺跡の可能性は低いと考えられる。

まとめ

したがって，工事着工前における本調査の必要性はない。ただし，工事中に遺構および遺物を発見した場合には，速やかに西彼町教育委員会または県学芸文化課に連絡・協議をお願いしたい。

［調査担当：荒井・東］（文責：荒井）

調査風景

Ⅲ 平成13年度 長崎県埋蔵文化財発掘届・発見届一覧表

No.	遺跡名称	市町村名	時代別								原因	結果	土木工事届け		遺跡発見届け		発掘調査届け		遺物認定
			旧	縄	弥	古	奈	平	中	近			57条の2	57条の3	57条の5	57条の6	57条	58条の2	
1	竹松遺跡	大村市			○	○					d								○
2	深堀遺跡	長崎市		○	○						d	B	○						
3	三城城跡	大村市							○			A	○					○	○
4	玖島城跡	大村市								○	d	B		○					
5	玖島城跡	大村市								○		B		○					
6	黒丸遺跡	大村市		○	○	○	○	○	○	○	d	A	○						
7	笛吹遺跡	小値賀町			○	○													○
8	蔦木遺跡	大村市			○	○					d	A	○						
9	黒丸遺跡	大村市		○	○	○	○	○	○	○	d	A	○						
10	黒丸遺跡	大村市		○	○	○	○	○	○	○		C	○						
11	竹松遺跡	大村市			○	○						C	○						
12	富の原遺跡	大村市			○						d	A	○						
13	黒丸遺跡	大村市		○	○	○	○	○	○	○		C	○						
14	黒丸遺跡	大村市		○	○	○	○	○	○	○	d	A	○						
15	玖島城跡	大村市								○	d						○		○
16	鷹島海底遺跡	鷹島町							○		d							○	○
17	鷹島海底遺跡	鷹島町							○		d							○	○
18	黒丸遺跡	大村市		○	○	○	○	○	○	○		C		○					
19	三城城跡	大村市							○			A	○					○	○
20	深堀遺跡	長崎市		○	○	○	○	○	○	○		C		○					
21	深堀遺跡	長崎市		○	○	○			○	○		A		○					
22	矢立山3号墳	厳原町				○					e	D				○		○	
23	鷹島海底遺跡	鷹島町							○			A		○					○
24	万才町遺跡	長崎市								○	d	A	○				○		
25	三根遺跡	峰町		○	○	○					d							○	
26	雪の浦貝塚	大瀬戸町		○								B		○					
27	雪浦番所跡	大瀬戸町								○		B		○					
28	狐岩遺跡	大瀬戸町		○	○							B		○					
29	清水遺跡	大瀬戸町		○								B		○					
30	一野遺跡	有明町		○	○	○						C	○						
31	六ノ坪条里跡	国見町				○	○	○	○			C		○					
32	沖田遺跡	島原市			○	○						B	○						
33	榎津遺跡	小値賀町		○		○			○			A		○				○	
34	原の辻遺跡	芦辺町			○	○					e							○	
35	三井木場池遺跡	東彼杵町	○	○								C		○					
36	飯盛遺跡	平戸市		○							d	B	○						
37	桜町遺跡	長崎市								○		A	○				○		
38	出島和蘭商館跡	長崎市								○		B	○						
39	坂口・内高野遺跡	大村市		○							d	A	○						
40	古賀島3遺跡	大村市		○								A	○						
41	西中山遺跡	平戸市	○	○							d							○	○
42	高尾窯跡	波佐見町								○	d							○	
43	黒丸遺跡	大村市		○	○	○	○	○	○	○		C	○						
44	里田原遺跡	田平町			○				○			A	○						
45	里田原遺跡	田平町		○	○	○	○												○
46	葛木堤遺跡	大村市	○								d	A	○						
47	葦見遺跡	上対馬町				○			○			C		○					
48	木場・鼾野遺跡	布津町	○	○	○											○			○
49	上諏訪山田遺跡	大村市			○				○	○	d	A	○						
50	勝山町遺跡	長崎市								○	e							○	
51	トラベ川遺跡	平戸市	○	○								B	○						
52	深堀遺跡	長崎市		○	○	○						A		○				○	
53	供養川遺跡	平戸市		○	○				○	○	d	C		○					
54	中田遺跡	大村市			○	○					d	A	○						
55	伊ノ浦B遺跡	西彼町		○								C	○						
56	黒丸遺跡	大村市		○	○	○	○	○	○	○	d	A	○						○
57	黒丸遺跡	大村市		○	○	○	○	○	○	○							○		
58	上原遺跡	有川町		○	○							C		○					
59	十園遺跡	国見町			○	○					d							○	○
60	白浜浦遺跡	福江市		○	○														
61	潮の浦遺跡	平戸市			○							B	○						
62	千里ヶ浜遺跡	平戸市		○							d	A		○				○	
63	竹松遺跡	大村市			○						d	A	○						

No.	遺跡名称	市町村名	時代別								原因	結果	土木工事届け		遺跡発見届け		発掘調査届け		遺物認定
			旧	縄	弥	古	奈	平	中	近			57条の2	57条の3	57条の5	57条の6	57条	58条の2	
64	大久保貝塚	石田町		○							a	D				○	○		○
65	三根遺跡三辺区	峰町			○	○					d						○		
66	恋の久保遺跡	平戸市		○							d	A		○					
67	小江遺跡	長崎市		○								B	○						
68	原の辻遺跡	芦辺町			○				○		b						○		
69	三城城跡	大村市							○			B		○					
70	勝尾嶽城跡	平戸市							○			B	○						
71	田子島台場跡	長崎市								○		A		○					
72	横山遺跡	長崎市			○							B	○						
73	黒丸遺跡	大村市		○	○	○	○	○	○	○	d	A	○						
74	黒丸遺跡	大村市						○	○			A	○						
75	吉田遺跡	峰町		○	○												○		○
76	山田城址	吾妻町							○			C		○					
77	古賀島4遺跡	大村市		○								C	○						
78	葛城堤遺跡	大村市	○									C	○						
79	黒丸遺跡	大村市		○	○	○	○	○	○	○	d	A	○						
80	外園遺跡	東彼杵町		○								A	○						
81	オテカタ遺跡	厳原町			○	○					e							○	
82	富の原遺跡	大村市		○		○						B		○					
83	神方古墳	小値賀町				○					b						○		○
84	富の原遺跡	大村市			○							B		○					
85	深堀遺跡	長崎市		○	○							A		○					
86	富の原遺跡	大村市			○							B		○					
87	宮ノ浦C遺跡	平戸市		○								B	○						
88	好武城跡	大村市							○			B		○					
89	里田原遺跡	田平町			○				○			A	○						
90	土器田黒曜石原産地	佐世保市		○								D			○				
91	黒丸遺跡	大村市			○	○	○	○	○	○		B		○					
92	三城城跡	大村市							○		d	A	○						
93	溜水遺跡	南串山町									d								
94	三川内東窯跡	佐世保市								○	a							○	○
95	伝代官所跡	佐世保市								○	a							○	○
96	三川内西窯跡	佐世保市								○	a							○	
97	里田原遺跡	田平町		○	○	○	○	○	○			A		○					○
98	十園遺跡	国見町			○	○						C		○					
99	小中野A遺跡	国見町			○	○	○	○				C		○					
100	杉ノ元遺跡	国見町			○	○	○	○				C		○					
101	小中野B遺跡	国見町			○	○	○	○				C		○					
102	里田原遺跡	田平町		○	○	○	○	○	○		d	A		○				○	○
103	里田原条里跡	田平町						○	○	○		C		○					○
104	里田原条里跡	田平町						○	○	○	d	C		○				○	○
105	糠ノ浜遺跡	豊玉町			○	○					d							○	
106	迎笠下第1遺跡	平戸市		○							d							○	○
107	黒丸遺跡	大村市		○								B		○					
108	黒丸遺跡	大村市		○								B		○					
109	里田原支石墓	田平町		○	○						d	B		○				○	○
110	鶴田遺跡	石田町			○							B		○					
111	三城城跡	大村市							○		d	A	○						
112	原の辻遺跡	石田町			○				○			C		○					
113	牧尾原遺跡	小値賀町				○					d	A		○					○
114	松浦党梶谷城跡	松浦市							○			C	○						
115	亀岡城跡	平戸市								○		A		○					
116	黒丸遺跡	大村市		○	○	○	○	○	○	○		C	○						
117	上峰原遺跡	諫早市	○	○							d								
118	新行江遺跡	佐世保市		○	○	○	○	○	○	○		C		○					
119	口ノ夏井遺跡	奈留町		○								C		○					
120	堂の元遺跡	平戸市		○							d	A	○						
121	唐人屋敷跡	長崎市								○		A	○						
122	里田原遺跡	田平町			○	○	○	○	○		d							○	○
123	多比良馬場遺跡	国見町		○	○	○	○					C		○					
124	黒丸遺跡	大村市		○	○	○	○	○	○	○		B		○					
125	黒丸遺跡	大村市		○	○	○	○	○	○	○		B		○					
126	原口・山下遺跡	大村市		○								A	○						

No.	遺跡名称	市町村名	時代別								原因	結果	土木工事届け		遺跡発見届け		発掘調査届け		遺物認定
			旧	縄	弥	古	奈	平	中	近			57条の2	57条の3	57条の5	57条の6	57条	58条の2	
127	満永遺跡	長与町		○							d	C	○						
128	深堀遺跡	長崎市		○								C	○						
129	江永東窯跡	佐世保市								○		C	○						
130	黒丸遺跡	大村市		○	○	○	○	○	○	○		A	○						
131	竹松遺跡	大村市		○	○	○					d	A	○						
132	小中野A遺跡	国見町			○	○					d							○	○
133	田崎遺跡	平戸市		○								B		○					
134	原の辻遺跡	芦辺町			○	○					e							○	
135	黒丸遺跡	大村市		○	○	○	○	○	○	○		C	○						
136	金田城跡	美津島町				○													○
137	野岳平遺跡	大村市	○	○								C	○						
138	覩城跡遺跡	芦辺町							○			C		○					
139	竹松遺跡	大村市		○	○	○	○	○	○			C		○					
140	黒丸遺跡	大村市		○	○	○	○	○	○	○		B		○					
141	風観岳支石墓群	諫早市		○														○	○
142	竹松遺跡	大村市		○	○	○	○	○	○			C		○					
143	黒丸遺跡	大村市		○	○	○	○	○	○	○		A		○					
144	山見沖海底遺跡	小値賀町							○		a						○		○
145	原の辻遺跡	石田町			○	○					e							○	
146	原第1遺跡	平戸市		○							d	A		○					
147	東城跡	飯盛町							○			B		○					
148	黒木城跡	石田町							○			C		○					
149	栢ノ木遺跡	松浦市		○	○							C	○						
150	横久保遺跡	松浦市		○	○						d	A	○						○
151	北久保A遺跡	松浦市		○	○							C	○						
152	葛籠池遺跡	松浦市		○								C	○						
153	蕨川遺跡	松浦市		○								C	○						
154	小嶋古墳群	松浦市				○						C	○						
155	寺ノ尾C遺跡	松浦市		○								C	○						
156	城ノ越城跡	松浦市							○			C	○						
157	庄野の六地蔵塔	松浦市							○			C	○						
158	大石C遺跡	松浦市	○	○								C	○						
159	牟田A遺跡	松浦市	○	○								C	○						
160	庄野の六地蔵塔	松浦市							○			C	○						
161	佐世保崎遺跡	松浦市	○									C	○						
162	葛籠池遺跡	松浦市		○								C	○						
163	小野F遺跡	佐世保市		○							d								
164	好武遺跡	大村市							○			B		○					
165	好武遺跡	大村市							○			B		○					
166	川久保遺跡	佐々町							○		d								○
167	逃の浦遺跡	松浦市			○						e					○		○	○
168	深堀遺跡	長崎市		○	○	○						B		○					
169	三城城跡	大村市							○		d	A	○						
170	上諏訪山田遺跡	大村市			○	○	○	○	○	○		C	○						
171	上諏訪山田遺跡	大村市			○	○	○	○	○	○		C	○						
172	筒城浜遺跡	石田町		○	○	○	○	○	○		e							○	○
173	原の辻遺跡	石田町			○	○													○
174	西千本松遺跡	平戸市	○	○															
175	古館遺跡	平戸市							○	○	d								
176	黒丸遺跡	大村市		○	○	○	○	○	○	○	d	A	○						
177	鍵峰城跡	島原市			○							C		○					
178	金石城跡	厳原町								○									
179	金石城跡	厳原町								○									
180	権現脇遺跡	島原市		○								C		○					
181	門前遺跡	佐世保市							○		d							○	
182	水崎遺跡	美津島町							○										
183	坂遺跡	石田町			○						d							○	○
184	三本松遺跡	平戸市		○															
185	権現脇遺跡	深江町		○								C		○					
186	長崎奉行所	長崎市								○		C		○					
187	広川原窯跡	波佐見町								○	e							○	
188	玖島城跡	大村市								○	d	A		○					
189	式見C遺跡	長崎市		○	○							A	○						

No.	遺跡名称	市町村名	時代別								原因	結果	土木工事届け		遺跡発見届け		発掘調査届け		遺物認定
			旧	縄	弥	古	奈	平	中	近			57条の2	57条の3	57条の5	57条の6	57条	58条の2	
190	卯才町遺跡	国見町	○								d	C	○			○			○
191	筏遺跡	国見町		○							d	C	○						
192	万才町遺跡	長崎市								○	d	A	○						
193	小ヶ倉A遺跡	国見町	○	○								A	○						
194	諫早農業高校遺跡	諫早市			○	○	○	○	○		d								
195	三城城跡	大村市							○			B	○						
196	里ノ前遺跡	小値賀町			○														○
197	清水遺跡	大瀬戸町		○								A		○					
198	結城城跡	国見町							○			A	○						
199	白井川遺跡	東彼杵町		○	○	○	○	○	○			B		○					
200	景華園遺跡	島原市			○							B	○						
201	小ヶ倉A遺跡	国見町	○	○							d								○
202	金山遺跡	国見町			○						d								○
203	松崎遺跡	勝本町		○							d							○	
204	黒丸遺跡	大村市		○	○	○	○	○	○	○	d								○
205	森岳城跡	島原市							○	○	d								
206	今屋敷家老屋敷跡	厳原町								○	d								○
207	富の原遺跡	大村市			○							E		○					
208	専正寺遺跡	国見町		○	○						d								○
209	小路遺跡	国見町								○	d					○			○
210	矢立山古墳2号墳	厳原町				○													○
211	矢立山古墳1号墳	厳原町				○													○
212	白水遺跡	石田町		○	○							C		○					
213	十園遺跡	国見町			○	○					d							○	○
214	鍋石石鍋製作所跡	西海町							○			C		○					
215	栢ノ木遺跡	松浦市			○	○	○	○	○		e							○	
216	大谷遺跡	郷ノ浦町			○						a							○	○
217	戸田遺跡	郷ノ浦町			○						a							○	○
218	石原遺跡	国見町		○	○	○	○	○			d							○	

・ 一覧表の通し番号は，文書の届け出順を基準とする。
・ 時代については，旧石器時代→旧，縄文時代→縄，弥生時代→弥，古墳時代→古，奈良時代→奈，平安時代→平，鎌倉・室町・戦国時代〔中世〕→中，江戸時代〔近世〕→近 としている。
・ 原因については　a→学術調査，b→遺跡整備，c→自然崩壊，d→開発事業に伴う調査を示す。
　　e→保存目的の範囲内容確認調査
・ 結果については，A→発掘調査，B→範囲確認調査，C→工事立会，D→慎重工事，E→発見届，
　　F→現状保存，G→厳重注意 としている。

報告書抄録

ふりがな	ながさきけんまいぞうぶんかざいちょうさねんぽう
書名	長崎県埋蔵文化財調査年報 10
副書名	
巻次	
シリーズ名	長崎県文化財調査報告書
シリーズ番号	第171集
編著者名	荒井春房
編集機関	長崎県教育委員会
所在地	〒850-8570 長崎県長崎市江戸町2－13 TEL 095-824-1111
発行年月日	西暦 2003年 3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査機関	調査面積 ㎡	調査原因
ぬかのはまいせき 糠ノ浜遺跡 など 16 遺跡	ながさきけん 長崎県 しもあがたぐん 下県郡 とよたまちょう 豊玉町など							

長崎県文化財調査報告書　第171集

長崎県埋蔵文化財調査年報

（平成13年度調査分）

平成15年3月31日

発　　行　　長崎県教育委員会

長崎市江戸町2-13

印　　刷　　日昇企画印刷